京城日報
本日二十頁

一、[illegible]報セン
二、我等皇國臣民ハ互ニ信愛協力シ以テ團結ヲ固クセン
三、我等皇國臣民ハ忍苦鍛錬力ヲ養ヒ以テ皇道ヲ宣揚セン

聖上　戰時の御精勵

拜察するだに畏き極み

支那事變第三年、昭和十四年の聖春　天皇陛下には寶算御三十九を迎へさせられ、玉體彌々御健勝、天機麗はしく拜せられる。一億民草の慶賀きことにこの一事である。廣東武漢三鎭相次ぐ攻略に、東亞の事態新段階に入り　天皇陛下の御政務も頓に御繁多となり、その御精勵の程拜察するだに畏き極みで、恐懼感激に堪へない。

顧れば漢口、廣東への進攻途次の中南北支前線將士の上を思召され、親しく四手井侍從武官を、また聯合艦隊へは山澄侍從武官を御差遣、勇武の將士に聖旨令旨を傳達せしめられたのも一再ではあらせられなかつた。また南支作戰に御參加の秩父宮殿下をはじめ奉り北支、中支より續々の御武勳を立て給ふて御歸還の朝香宮殿下、松井前上海方面最高指揮官、柳川前司令官、長谷川前支那方面艦隊司令長官、大川内前陸戰隊司令官、杉山前支那方面軍總參謀長、新任陸相板垣中將、陸軍次官東條中將、次いで南支方面最高指揮官にて廣東攻略後凱旋、內地に歸還した古荘中將、寺內北支方面最高指揮官らよりは、その都度具さに軍狀を聞し召され御嘉勞の御言葉を賜はつた。

前線將士の士氣鼓舞のため八月十一日横須賀海軍航空隊、木更津海軍航空隊、また十月十日には熊谷の陸軍飛行學校に行幸、海陸の荒鷲が大陸の空を攻撃下に制壓した將士練磨の樣や、航空日本が世界に誇る新銳機を天覽、これより先き五月廿六日、滯空、距離の世界新記錄を樹立し、短時日に長足の進步輝やかしい航研機關係者十二名に、功績を嘉せられて破格の御沙汰、拜謁賜はつた。

一方敬神崇祖の思召で大津市に近江神宮御建立のこと仰出され、神武、孝明兩天皇の二座を御祭神として奉祀せしめらる。一道三府四十三縣の地方長官を召されては地方の產業、貿易、治安、保健など銃後の一般狀況を具さに御聽取、國民の勞苦御體驗にとて例年御親ら遊ばされる水稻の御親栽は昨年も缺かし給はず、軍需產業振興、御奬勵には民間工場に侍從を御差遣遊ばされたのである。

御母皇太后陛下への御孝養、皇太子殿下をはじめ奉り義宮、照宮、孝宮、順宮各殿下との御團欒も、御時間なき爲め盡させ給はず、官衙學校の行幸以外は一度も拜せられなかつたのである。

陛下にはかねて殉忠報國のわが忠勇なる將兵に後顧の憂ひなからしむる畏き思召しあり、十月三日、近衞首相を宮中に召され、陸海軍將兵の家族並に戰死者傷病者遺家族に對する援護事業の資にと、御內帑金三百萬圓の巨額を下賜遊ばされ、更に勅語を賜はつたのである。同月十九日の靖國神社における一萬三百三十四柱に及ぶ今次事變の英靈新合祀の臨時大祭の行幸御親拜、地下の英靈も聖恩の洪大に深く感激したことであらう。

かくて廣東、武漢三鎭陷落を告げたりと雖も、なほ續く長期建設のため政府は十一月二十八日今次事變の新事態に對處し、日支關係調整の根本方針を確立するため御前會議に附し、翌二十九日內閣參議官の承認を求め同三十日には宮中にて御前會議を開き確固不動の帝國の新方針は決定した。これと前後して對米回答が發せられ、支那の門戶開放、機會均等などの要求に對し帝國は事實上の九ヶ國條約否認の回答をなし、毅然として東亞の盟主なる旨を强調闡明したのも　天皇陛下の御稜威と拜し奉るのである。

仰ぎまつる　天皇陛下の御英姿

仰ぎまつる　天皇陛下の御英姿は[illegible]八日大本營陸軍部に行幸の日宮內省御寫眞部にて謹寫申上げた新御制定の御軍裝に大勳位副章を御佩用あらせられた[illegible]御近影である。畏くも　天皇陛下には事變以來專ら軍務御政務等に御多端に渡らせられ夙夜御精勵遊ばされるが、その間終始御軍裝を召させ給ひまた四大節、初め宮中諸儀式に際しても昭和十三年來は一般に正裝、大禮服も中止せしめられ　陛下御親らも常に御軍裝を召されると承る、畏き極みである、輝く戰勝の春、玉體彌々勝れさせ給ふ御英姿を拜し奉り、謹みて聖壽の萬歳を祈り奉る

【宮內省御貸下】

興亞第一新春

つひに大いなる朝は訪れた。

首都南京攻略より僅かに一年餘、[illegible]に陸に海に、空に、御稜威の赫々たる、皇軍の進むところ敵無く、全世界の[illegible]の新秩序創建に邁進は一轉、歷史創造劇「東亞興隆」は、まさにわれ等日本民族を盟主としてその第一幕をあけたのである。

全くこれ忠勇義烈宇內に比儔無き陛下の股肱の碧血に依つて贖はれしもの。熟慮、眼を俯せて感謝の外は無い。而も、われ等の感謝は貴き犧牲者の志を紹ぎ、堅忍不拔、民族の理想を顯現してはじめて完たしとすべく、そこに銃前銃後の差あるべからず。

固より東亞興隆は長期建設の軌條に則る聖業。從つて將敗殘政權を傀儡とする魍魎、さては共產一派を躍らす魍魎等々、前途の障碍は愈よ出でて愈よ繁からんも、われに神武大帝の賜へる聖詔あり。曰く『夫大人立制。義必隨時。苟有利民。何妨聖造。』まことに斯くてこそ八紘を掩ひて宇と爲すの大理想も遙かく、二千六百星霜を隔て、『聖訓炳[illegible]』われ等この聖業の兵站基地たる半島に民たるもの、興亞第一新春を迎へ深く期する處あるべきを確信す。敢て年頭の辭となす。

血を以て歷史[illegible]

朝鮮總督　南次郎

茲に光輝ある聖戰下第二の新春を迎へ、關內二千三百萬同胞と共に謹んで皇室の彌榮を頌し奉り、併せて皇軍將兵の大勝を慶賀す。事變は既に滿一年有半、本日を以てまさに第三年に入り、事態は依然[illegible]長期持久の第二段階に進展して國民の覺悟は益々堅强を要するの時期にあり、年頭に際し半島官民と共に時局認識の決意を新にせんと思ふ。抑々本事變はひとり動員兵力並と交戰地區の廣大、及び世界的關聯の微妙複雜なるものあるを以て未曾有の規模と稱するを得るのみならず、その歷史性に於て亦前古を曠うするものであることは、少しく事變の進行を閲する者の理解する所でなければならぬ。

即ち東亞の各民族は

其の皮膚の色の酷似するが如く、互に血液の源流を密邇にし文化の交流を遂げながら、唯だ政治の部面において各々國を立て覇を爭ひ、內外の治亂常ならず、盛衰興亡を反復して幾千年を經過し來つたのである。殊に暗黑の中世を經て近代國家の時代に移行するや、日支二大國民は和戰交々相見ゆること半世紀、支那の積弱は屢々西方列强の乘じて蠶食する所となり、帝國は獨り東亞の安危を支へて近年に至つたが偶々滿洲事變は日滿一體の新關係を生み出だし、今また本事變となつて皇軍の偉大なる戰果は日滿支に亙る民族協和東亞聯盟の新組織を現出するの大機運を釀したのである。これ畢竟東亞開闢以來の劃期的事業であつて、之を換言すれば、東亞各民族の有したる幾千年の歷史は、今日此の結論に到達せんが爲の伏線的過程であつたとも見ることができ、又之を日本史の立場より見んか、遠くは神武肇國の八紘一宇の大理想に發し、近くは明治天皇の聖謨に基く東洋平和保全の國是が三朝相承の遺烈に依り、ここに本事變を機として其の歸結を顯現せんとするのであつて、眞に莊嚴なる史的偉觀なりと謂はねばならない。

斯の如く現代の東亞

民族は今や過去の如何なる時代にも見ることを得ざりし歷史の大變化に目覺しつつある次第であるが、爰に深く牢記すべきは我々日本國民は之が傍觀者に非ずして自ら創造者たるの立場に在り、國民の貴き鮮血を以て新なる歷史を綴りつつあるの一事である。凡そ創造の途程には必ず苦難を伴ひ、光榮の地位には重任の隨はざるなし。孟子の『天の將に大任を是の人に降さんとするや、必ず先づ其の心志を苦しめ其の筋骨を勞し其の體膚を餓やし、其の身を空乏にし、行其の爲す所を拂亂す』と言へるは、恰も天意を負ふて世界に大志を伸べんとする我が英雄國民の境遇に感を與ふるものであつて、皇軍將兵の死鬪も、銃後國民の忍苦も、一に天の試練に耐ふるの所以に外ならない。

帝國の國際地位優越

せり。日滿支聯盟の新東亞協同體に指導者たるの責任は大なり。此の地位の躍進、此の責任の加重に對し若し國民の資格、實力にして不足あらば、或は[illegible]の禍機を孕み今日の光榮却つて明日の失意を生むやを測り難い。要は先づ國民の自己刷新である。一切の社會的[illegible]である。內に省みて大乘的信念を磨き强力なる[illegible]を整へ、國に挺進し國民を化醇するの資格を獲得して初めて東亞に大道義を布き、世界に志を伸ぶるの國民たり得るのである。予が常に事變解決の鍵が繫つて內に在りとなすも亦道聞の理路を省察するが故である。

事變以來顯著なる姿

を以て顯現したる內鮮一體の風潮は、半島同胞の純情と聰明よく我が國家の崇高なる理想と使命とを了解したるに由で、三十年施政の結實として洵に感佩に堪へず、之に現はされたる大和大同の精神と原理こそ古來兄弟同盟なる事としたる東亞民族が今將に提攜緊密の過程に入るに當つての道義的示範として亦大なる史的役割を果すものと謂はねばならぬ。我が半島が東亞聯盟の流動に對して地理的中心に位置し、國防經濟の重要基地として特異の國策的使命を自覺するは言を要せず、聖戰なほ半にして物心兩面に亙る國內體制の强化に萬全を期するの秋、此の地理的要位に據り此の內鮮一體の實果に基く雄偉勁烈なる協同興亞の大思想、大精神が我が半島より湧起して機運の先頭に進まんことは吾人の心願たる[illegible]を怠るべからず、國民精神總動員運動の展開に期待する所も亦之である。

茲に萬里遠征の皇軍

將兵に其の勞を深謝するの心を移して、銃後の監護と決意とを共にせんと欲する次第である。

朝鮮神宮　新春三日間の行事

兵站基地半島の守護神として二千三百萬內鮮同胞崇敬の中心である朝鮮神宮の新年の行事は左の如く、戰勝第三年の野頭を嚴かに[illegible]ことになつてゐる

◇元日は午前零時から社頭において神酒を一般參拜者に授與、この神酒は全鮮の釀造家から奉納したものである、午前一時からは奉納神樂があり、社頭の狀況……

◇二日は午後一時から……

◇三日は午前十時……

興亞の新政策【1】

即ち日本のモンロー主義

樞密顧問官　伯爵　金子堅太郎

◇今度の支那事變が起つて、私は感慨を新たにするのは、今から三十數年前アメリカ大統領ルーズヴェルトと駐米英國大使ゼームス・ブライスが共に、日本に、東亞の盟主たれ、日本は東洋にモンロー・ドクトリンを行へといつたあの高遠な意見である。

今各國の猜疑があるやうであるが、皆內心日本が支那の土地を取らうとしてゐるのではないかと恐がつてゐる。日本としては毛頭そんな考へはないのであるから、この際日本はルーズヴェルトとゼームス・ブライスの言つた通りにアジアのモンロー・ドクトリンは即ちアジアの爲めのみならず、世界平和の爲めだ。思ひ切つてアジアから手を引きなさい。決してお前達の既得權は荒さぬ。お前達の支那に於ける權益は荒さぬ。門戶も開く、機會も均等する。決して支那の領土をとらうといふ考へは日本にはない。又支那の啓發については一切日本が勝手にやるといふ樣な考へはないから、これは……

……上陛下に奉仕して三代、聖德を……らして居るが實にこの明治天皇の思召は明かに事實の上に……外交に顯現されて居る。

勅題二首

佐々木信綱

大御稜威天足らし國足らす新春の　朝日波にはえ島々に映ゆ

紫に海けぶらひて沖つ島　片面に朝の日は照り映ゆる

朝陽映島

本社懸賞勅題寫眞　特選第一席　京城漢江通一　惣門明二作

これからの……

東亞建設

南總督試筆

昭和己卯元旦　[illegible]

遙かに東天を拜す

朝鮮軍司令官　中村孝太郎

茲に 征戰第三年の新春を迎ふるに方り、遙かに聖壽の無窮と聖蹟の萬歳とを壽し奉り皇國々運の愈々隆昌ならむことを祈る。惟ふに今次事變勃發以來正に二十ケ月此間皇軍の鬪ふ處如何に振ひ近くは抗日の策源地たる武漢に陷り、今や支那中原は擧げて我が占據の下にあり。此の如き偉大なる聖戰の進展は固より御稜威の然らしむる所、而して亦皇軍將兵の絶大なる献身と銃後の熱誠に淵由するものにして、其の赫々たる國民同胞の努力に對しては衷心感謝措かざる所なり。

顧みて 時局の前途を洞察するに抗日政權は今や名實共に一地方的存在に墮したりと雖も、之を支援する列強の存する限り容易に矛を收むべしとも思はれず、他面新興支那の建設は土地の尨大と特異の社會情勢特に共産黨の破壞工作とに依り決して容易の業にあらず、即ち且つ戰ひ且つ建設し事變の長年月に亙るを覺悟し堅確なる決意を以て東洋平和の礎石を固めざるべからず、是即ち皇國の大使命にして亦現代皇國臣民の大責務たり。

今や 東洋新秩序の建設は漸く其緒に就きたりと雖も前途は尚遼遠なり、吾人は更に超非常時の永續すべきを認識し有事を平常化して進むの覺悟と實行とに遺憾なきを期せざるべからず、而して今後必然的に重加すべき四周の壓迫を排除し毅然として邁進し以て皇國の大使命を貫徹せんが爲に武力は勿論國家總力の飛躍的充實完備と國民生活の向上を緊要とするや明かにして特に精神は總力の心髓にして之が緊張は總力向上の根幹たると共に今後愈々重大化すべき思想戰に必勝の重要素たり。此意味に於て國民精神總動員運動を益々強化徹底し其の成果の發揮を期待して已まず。

而し て我朝鮮半島は帝國の大陸政策推進の據點にして然も皇國人口の三分の一を占むる重要地位に在る半島二千三百萬大衆は決して現狀に甘んずるを得ず須らく更に責務の愈々重且つ大なるを認識せざるべからず。即ち事變以來半島の愛國心は著しく昂揚し志願兵制度の實行を見る等欣幸帝國の雄氣を示すもの少からずと雖、强大なる軍備を有する第三國の軍事的壓迫並に思想的魔手の跳梁に對し半島が負荷する重大任務を果さんには國防觀念の普及徹底、國防資源産業の開發、運輸交通の整備等半島の有する實力に比し倍一層實現を要するもの多大なるを覺悟し益々協力せざるべからず。

事變 第三年の新春を迎へ旭光燦たる皇國殷旋の良姿を思齡し感激措く能はざるものあり、然も思を一度今次事變の礎石として斃れたる幾多將兵の英靈に對し到す時は誠に哀悼の至情を捧ぐると共に其の遺族傷病勇士に對しては一日も速かに快癒せむことを念願して已まざるなり。

茲に 遙に東天を拜して所懷の一端を述べ年頭の辭となす。【寫眞は中村軍司令官】

大使命に邁進せん

政務總監　大野緑一郎

茲に 昭和十四年の新春を迎へ、謹んで聖壽の萬歳を壽ぎ、皇運の隆昌を祈り奉る。顧みるに昭和十二年七月抗日の迷夢に醉はれたる南京政權が帝國に敵を構へてより既に一年有半、大稜威を負うて帝國の赫々たる傳統を誇る皇軍の威容は南北陸海の要衝を制壓し、大陸山河の要衝に旭旗の翩飜たるを想望するは我等銃後國民の抑へ難き感激である。然るに頑迷なる蔣政權は既に中原の地を悉く喪失して一地方軍閥に顚落し、尙ほ長期抗戰の企圖を捨てず、邊陬の地に在りて依然小兒病的抵抗を續け、之に對し皇軍は飽くまで徹底的粉碎を期しつゝあり。

斯 くて今や事變は武力戰に併行して長期建設の段階に移行したのであるが帝國の眞意を理解して共に興亞の大業を分擔せんとする各新政權の成長漸く順調となつて、反共討蔣の民意と、平和建設の機運が大に興起し來つたことは我が皇國具現の姿として慶賀に堪へないのである、即ち今後戰果の擴大、治安の好順と相俟ち、日滿支の間に於ける聖戰共榮の新關係が具體化するに伴ひ、初めて東亞に外力の脅迫を反撥して自主自立することができ、前古に比類を見ざる恒久平和の體制と大文化創造の素地とを確保するを得るのである。此の東亞協同體に盟主たる日本國民の任務の重且つ大なることは言を俟たず。國民相率ゐて聖業を達成し得て初めて、幾多將兵の英靈は安らかに眠り、また本事變に捧げられたる絶大なる犧牲を償ひ得るであらう。

事 變發生以來、忠誠愛國の心に結ばれて內鮮一體の紐帶を强化し來れる我が半島にありては、更に事變の進展に伴ふ如上の新情勢に卽應し、皇國臣民たるの矜持を同うして益々聯繫に鞏々堅確を加へつゝあり。志願兵制度創設の劃期的施設は此の際實現を見たる教育令改正及び神が活かされ、其の眞面目が發揮せられねばならぬ。また國民精神總動員聯盟は、その組織の擴大強化に依つて所謂國家總力戰の要求に順ふるに十分なる活動を展開するであらう。時局對策調査會に依つて闡明されたる諸方策は、精神・思想の分野に於て更に洽く皇國臣民たるの心境を培うて、內鮮一體の實を深化し、物的、經濟的なる分野に於て大陸前進兵站基地たるの內容を强化するにあり。しかして之等國策の具體化は何れも半島同胞の精神物心兩面に亙りて招來さるべきものたるは勿論であつて、同胞の國民的自覺が此の機運を釀成する重要な素たるべきは謂ふまでもない。

今 や事變第三年、國家の總力を集中して聖戰の目的に邁進すべき時期に當り、生産力の擴充と消費の統制とに關して國家的見地より行はんとする各人の協力は更に益々強く要求せらるゝ過程にあることを理解せねばならない。而して此等の國策は擧國一致、各人奉公の至誠と熱意に燃ゆる國民の私心なき支持協力あつて遂行し得らるゝのであつて、斯くする處は銃後國民精神の昂揚に俟つのである。

年 頭に立ちて、吾人は戰場にある將兵諸士の辛苦に對し感謝の誠を捧げると共に傷病將士に敬意を捧げ、新らしき年を明け行く東亞の黎明に對して無限の感激に燃えつゝ、皇國日本の大使命達成のために半島統治を一層力強く果さんことを期する次第である。【寫眞は大野政務總監】

本府來年度大豫算
約六億四千二百萬圓
折衝の結果承認さる

南總督の諮問により、兵站基地の重要使命遂行に絶對必要な積極的新規事業が幅廣く盛り込まれた本府明年度豫算は第七十四議會休會明けを控へ、本府豫算の編成の說明、折衝のため、大野政務總監、水田財務局長が上京、大藏省と最後的交渉の結果、三十日まで大藏省と大野總監の努力と半島の重要性が認められ、總額六億四千二百九十八萬圓といふ施政以來の記錄破りの大豫算が承認された、これを昭和十三年度豫算に比べると一億二千四百萬圓といふ驚異的增加を示してゐる、本府各局から提出された新規事項の主なるものは三十六項目に及びその中最も主なるものは鐵道建設改良費七百四十萬圓で、本府企畫部、羅津廳の新設、國民精神總動員運動の補助、招魂社創立等々躍進朝鮮の面目を裏書する樣な劃期的豫算面で充實してゐるが大藏省との折衝に際し半島官界から多大の注目を集めてゐた問題の本府厚生局設置案は、勅任官增員反對の主旨によつて惜しくも明年度豫算面から姿を消すことになつたかくの如く中央政府では勅任官增員反對の態度であるにも拘らず本府の新規事業の承認によつて本府企畫部長、羅津廳々長、小鹿島更生園々長、鐵道局二名合計五名の勅任官豫算が同時に認められたことも記錄的なことである、なほ本府では卅一日午前十一時次の如く明年度豫算を發表した

本府豫算內譯 並に新規事業

一、昭和十四年度豫算總額 六億四千二百九十八萬圓

一、昭和十三年度豫算（公布豫算）ニ比シ增 一億二千四百萬圓（計數整理ノ結果異動スルコトアルベシ）

一、新規事項ノ主ナルモノ次ノ如シ

事項	金額
イ、鐵道建設改良費（中央線、滿浦線、茂山鐵山開發專用線等）	七、四二〇萬圓
ロ、私設鐵道買收、私設鐵道補助法の改正（年限延長等）	五七
ハ、國防道路修築	七一
ニ、航空施設	三五
ホ、氣象觀測充實	三五
ヘ、産金獎勵施設の增加（總額二、一五五萬圓）	二一五
ト、重要鑛物增産	三五
チ、人造石油獎勵等	一七〇
リ、棉及亞麻增産	三〇
ヌ、米の生産確保	四〇
ル、甘藷增産	二三
ヲ、畜産獎勵	四二
ワ、民有林造林治成	[illegible]
ヨ、教育に關する經費の增加（初等中等學校及專門學校）	二三〇
タ、京城鑛山專門學校設置	一三
レ、羅津廳新設其他羅津に關する施設（廳長勅任）	一九〇
ソ、鎭川港修築（總額四三五萬圓）	四五
ツ、濟州島築港（總額五五萬圓）	三八
ネ、國民精神總動員運動	二四
ナ、軍人援護施設	三〇
ラ、招魂社創立（總額四〇萬圓）	一〇
ム、本府に企畫部新設（部長勅任）	五
ウ、國民登錄實施	五一
ヰ、職業紹介所國營	一二
ノ、鑛業所充實（並若干人增員、所長勅任）	三八
オ、在外鮮人施設	三〇
ク、京城北鮮間通信施設擴充（總額三〇〇萬圓）	二〇〇
ヤ、[illegible]	六〇〇
マ、司法機關の充實	一六
ケ、陸軍兵志願者訓練所充實	二〇
フ、經濟警察及北鮮警備施設の充實	九三
コ、臨時防空[illegible]	四八

テ、中小商工業資金融通損失補償制度創設（五年間に總額五〇〇萬圓）

ア、[illegible]府邑府制施行

等相俟つて朝鮮の內外貿易は一[illegible]

水田局長語る

【東京支社特電】十四年度の豫算折衝の經過並に結果につき水田財務局長は語る

今年 は昨年の豫算に比し相當多額の增加となつてゐるので初めから相當困難な豫算であることは覺悟してゐた、增額の大部分は鐵道隊に軍關係のもので大藏省、軍並に我々の間で協議の上ある程度壓縮した結果一億二千四百萬圓の增となつた、初め內地では勅任官は一人も認めぬ建前であつたが本府のは總監の御努力によつて三人以上も認めさせたことは今までにないことで、先づ

成功 といつてよからう、來年度の軍事費も今年より增える情勢にあるので、外地からの繰入金も相當巨額を要求されてゐたのであるが昨年より二百五十萬圓增の二千萬圓で喰ひ止めた、總督府としては餘り財源の豐かでない中から苦心して捻出した代りとして金資金會計から四百餘萬圓を貰ふことにしたので差引百五十萬圓の餘裕が出來た譯でこの點も都合よく行つたと思つてゐる、これだけ尨大な豫算に私鐵の買收や補助率の整備延長まで出來たことは上乘と云はなくてはならぬ、これもひとへに政務總監が限度まで頑張られ我々を鞭撻して下さつた賜物に外ならぬ

或は 各局の要求中實現しなかつたものもないではないが、最善の努力を拂つたのであるから不滿もあらうが諒とされたい

外地豫算內定

【東京電話】昭和十四年度に於ける特別會計豫算の內朝鮮總督府を除く臺灣總督府、南洋廳、樺太廳の外地各特別會計豫算については三十日夜大藏省拓務省の折衝を經て內定を見た

海軍への献金
二千五百九十餘萬圓

【東京電話】陸海軍に對する銃後國民の赤誠をこめた献金熱は益々昂まり海軍への献金額は事變以來二千六百萬圓に達したが聖戰二年に亙り三十日海軍省では國民の熱誠に感謝しつゝ十三年十二月三十日現在の献金內譯を公表した

事變以來海軍への献金總額は二千五百九十一萬六千二百七十九圓で內國防費一千八百三十萬六千八圓・艦兵費六百二十九萬六千五百四十四圓三十四錢、器獻兵器獎勵費三十一萬三千五十四圓四十五錢、獻品六百六萬六千百八十五點といふ尨大なものである

米穀買入
滿額の好成績

【東京電話】農林省は去る二十一日米穀出廻り調節のため二百萬石の米穀買入を發表したが之が買入成績に關し三十日左の如く發表した

【農林省發表】昭和十三年十二月米穀調節のため買上せる米穀買入成績は左の通り（單位石）

內地米合計	一、四〇五、〇〇〇
朝鮮米合計	四〇七、二九〇
京城米穀所	一九〇、二二〇
群山〃	一五七、〇〇〇
釜山〃	五九、二九〇
臺灣米合計	一八七、九一〇
合計	二、〇〇〇、〇〇〇

不再錄號外發行

『汪精衛の重大聲明』を三十一日正午不再錄號外として發行致しました

第一面の繪は松田黎光畫伯筆の『朝陽』

鹽値上げ

[illegible]政府の必需品中特に鹽の値が元旦から値上げされる
▲一等鹽放賣六十錢（百斤）につき十五錢▲一等鹽、十八錢、[illegible]

東西南北

[illegible]歩兵大佐にヒゲで知られた總督府の京城府會議員、大野史朗氏は明けて六十一の當り年▲府會では名副議長として六十餘名の府會議員にウルサ型、府議連にグウの音も出させなかつたが、愛婦高橋府尹が議長席に納まると同時に「いくら親子でも議長を俺に譲れぬぞ、へからね」……とつさり副議長を辭退▲舊殿の出世に眼を細くした大野氏本年廻りにそろく隱居かと思ひきや、却々以てさにあらず、さすが兎の當り年だけあつて『今年は大いに頑張の働きを擧げてピョンピョンはねまはる積りぢや』は老大佐仲々の意氣【寫眞は大野史朗氏】

東洋久遠の和平確立を御祈念
四方拜、歲旦祭の御儀

【東京電話】聖壽下再び迎へた戰捷の春、昭和十四年の元旦、畏くも天皇陛下には四方拜の御儀に於かせられ東洋久遠の和平確立を御祈念あらせられる御儀を御厳修遊ばされる、午前五時陛下には黃櫨染御袍の御束帶を召され[illegible]御神嘉殿南庭に出御、御屛風の內に入らせられ、皇靈、神殿、山陵等御遙拜あらせられるが、側近一人侍び奉ることなく、神嚴限りなき御儀で御親ら東亞の和平、國家の安泰、萬民の多幸を御祈念あらせ給ふと承る、それより同四十分更に賢所皇靈殿神殿に玉串を奉らせられ[illegible]しばし鳴り響く裡に御親拜、歲旦祭の御儀を行はせられる

文武顯官に賜謁

【東京電話】莊嚴なる元旦賢所の御儀を終へさせられた天皇陛下には此の朝まだき午前八時鳳凰間に出御、謁見の御儀あり、大奧にて皇后陛下、皇子殿方と御團欒ありて御祝膳を召させ給ひ午前十時再び鳳凰間に出御、秩父宮同妃、高松宮同妃各殿下を初め各皇族方に御對面、戰捷新年の御祝詞を受けさせられ、次いで皇族方を始めさせられて正殿に出御、事變下畏き思召に依り許されたフロツク、モーニング又は軍裝に威儀を正して居並ぶ近衞首相以下文武顯官、同夫人等に賜謁拜賀を受けさせられ、次いで午前十一時再び出御、宮中席次第二十七以上の勳員並に有爵者の拜賀あり、午後は一時半より白國大使、ペタソムピエール男以下各國大公使、同夫人等の拜賀を受けさせられて御祝儀滯りなく濟ませ給ふ、同二日は今春は拜賀なく者參賀者は參賀申上げることになつてゐる

本社の文化的新事業

朝鮮書道振興會創設
全鮮書道展をも開催

今次支那事變を契機として東洋思想の復興、日本精神の昂揚は澎湃として滿天下に漲り亘り、その態樣は千差萬別であるけれども、着々としてその體現を見つゝあるのは欣快に堪へぬところである。思ふに書道は東洋思想の根源であつて、また日本精神の母胎ともいひ得べく、その振興と否とは、懸つて國民思想の張弛に影響する。

乃ち本社は、內地と大陸との連繫基地たる半島に於ける書道の普及向上を圖ると共に、國家の文化に裨益せんがために『朝鮮書道振興會』を創設し、これを興亞第一春に江湖に發表することになつたのも、實に前記の趣旨に外ならずと雖も、これに依つて思想善導の實をあげしめんがために外ならない。今や內鮮が全く渾然たる一體となり、非常時局下確固たる皇國臣民の意識に邁進しつゝあるの時、本社のこの企畫は、必ずや全鮮に同感の嵐を呼び起すに違ひない。

然も本社は、この『朝鮮書道振興會』の一事業として、**來るべき晩春初夏の季を卜し、大規模なる全朝鮮書道展覽會を新裝成る總督府美術館に於て開催すべく目下着々準備中である**ことを吹聽し、大方各位の今よりこれが御參加の用意に遺憾なからんことを切望するものである。

昭和十四年一月

京城日報社

我等の宣言！

大西拓殖株式會社
社長　大西靜史

支那四百餘州の大半を駒の蹄で蹴散らした、那事變も樞要都市と豐饒な資源を喪つた蔣政權が、今を名殘りの姥ヶ奥地で僅かに餘喘を保つて援蔣ブロツクの破袖に縋つてゐるに過ぎない。これからが愈々本舞臺だ、背後の魔の手に鐵の爆彈となつて腐敗の掃滅を加へるのだ。誰れに遠慮氣兼が要るものか東洋平和の聖戰を邪魔する奴は、片つ端から眉觸るればなで斬り、人觸るれば薙倒し、堂々破邪顯正の利劍を揮ふ許りだ。

銃後の諸君　第一線部隊と倶に新年を期し超非常の大行進を起そうではないか。

我等も愈々非常線にカーツパイ張切つて年頭を待期してゐる。

◇　◇　◇

大アジヤの建設　東洋平和の確立は理論じやない、大和民族の堂々たる行動力だ、この行動力が發しては第一線部隊の果敢な爆擊となり又轉じては銃後の國家總動員となり延いては大陸開拓の建設大行進となつてゐるのだ。

大アジヤの建設は、土を拓くにあり、土を拓き、これを利化する事は正に至上の經濟政策であり、又土に親しむ民族は愛國的感激が強くなる。

今大陸開拓の手が長期建設のプランによつて着手されんとしてゐるが我等は國力の充實强化擴大の見地から斯く叫び度い。

大陸開拓と倶に
國內の荒蕪地を一齊に拓け

全國を遊歷し、山野を跋渉して驚くことは、餘りにも良田沃野の荒廢不毛化してゐることである。人口問題、食糧問題の解決に此の際大陸開拓と倶に國內の不毛荒蕪地を開拓することが最も焦眉の急を要する課題ではあるまいか。國運伸展に腐心專念せらるゝ當事者が何うして此の重大問題に無關心であるのか誠に奇異の感に堪へないのである。殊に大都市近郊の良田沃野を潰して荊棘の跋扈に任せ緣樹を伐採して禿化せしめてゐる住宅地が何百萬坪か放置されつゝある現狀を觀る時一般大衆の餘りにも大地に無關心であり、コンクリート文化の積弊の如何に大なるものなるかを痛嘆せずには居られないのである。

此の荒廢を誤認して恰かも土地分讓者が無責任であるかの如く思考され偶々巷間に指彈の聲を聽くが、一面購買された方々が土に對する認識を缺き只漫然と土地を買つて自然に放任し數年後の値上りを夢想してゐるのと、愛地　勤勞の觀念に乏しい結果が斯の如き矛盾せる現狀を招來したのではあるまいか、實に心外千萬である。何れにしても土地は決して人工を加へずして騰貴するものでもなく又利用の道を講ぜずして價殖さるゝものでもない。況んや住宅地として開發され相當施設された土地を雜草の繁茂に任せて折角の開拓を自然の姿に還元さすが如きは寔に國家的の一大損失と謂はねばならぬ。

折角買つた土地だ、直ちに家屋を新築する事が不可能であつても、せめて休日位には家族團欒して雜草を除き又は植樹に一日の勤勞體得自然に親しみ土の妙味を感得し身心を清洗して明日の活動に備へることは刻下の厚生國策に順應する最大至上の賢策である。漫然。土地。を。買入れ何等の施工もせず惜ら荊棘の跋扈に委ねらるゝは大自然の恩惠に反き不經濟の標本であると斷言して憚らない。

從來多數の分讓地に於ても生活に必要なる相當の施設を爲してゐるにも不拘開發遲々として捗らざるが故に除草に或は其他凡ゆる手入れに莫大な經費をかけてゐる處もあるが。土地開拓は決して會社のみが焦慮しても其の實績を擧ぐる事が出來ないのだ會社と購買者の兩者が渾然一體になつて協力しなければ所期の目的を完全に達成する事が出來ないのである。購買者が家屋も建てず手入れもせずして何うして土地が開發さるゝものか。

不在地主になつて土地を放任するは天意に反くものなり

私は良田沃土を潰しての土地分讓は大なる罪惡であることを痛惜し專ら不毛荒蕪地を開拓して來たのであるが購買者の沒關心的放任主義の弊風には實に煩悶を重ね苦慮してゐるのだ。斯る見地から向後不在地主になつて放任せらるゝ方は土地買入れを中止されたいと叫び度いのである。

我等は斯く叫ぶと共に土地への再認識と開拓徹底の爲め既往の分讓地に於ても開拓促進　利用高度化へ一致邁進すべく決意を披瀝する。

本社主催

『長期建設を語る』座談會（一）

目標と國民的理想

一般民衆の氣構へ

日時　昭和十三年十二月十五日
場所　東京　星ケ岡茶寮

出席者
内閣參議陸軍大將　松井石根氏
前内務大臣　河原田稼吉氏
前大藏次官　川越丈雄氏
東京商工會議所副會頭　藤山愛一郎氏
中日實業副總裁　高木陸郎氏
本社側　御手洗副社長

御手洗　それではソロ〳〵始めて頂くことにします。大變どうも主催者の京城で、御出席を頂く方々が…

ならなければならない、從つてこれを出來上らせるまでには非常な困難と非常に長い年月を要するといふことは皆んな覺悟して居るのであります。たゞ日本は一體どういふ國になるんだ、どの位の費用が掛るんだ、どれ位の長い年月がかゝるんだ、どの程度に辛抱すればいいか、といふやうなことになりますと可成り皆心配して居ると思ふのであります、殊に一般民衆におきましては、さういふ…

支那に求むるもの、上に何等かの考を行ふといふやうな點に於て、相當、武力まで用ひなくとも妥協の點があるんぢやないか、まアそこらは此處に專門家が居られるから後からお話があるだらうと思ふけれども今日それよりももつと重大な問題は、やはり兩國民の感情的、思想的の相剋といふ問題だ、こいつは相當長い年月の間掛つて今日まで釀成し來つたものであるから、これをさう簡單に短時日に解決するといふことは非常に困難だ、而もこれ等のものは眼に見えない、物質的なものでなく精神的なものであり、形而下のものでなくして

寧ろ形而上の問題であるんであるから、この解決は自然非常に困難でもあり、永き年月を要するといふことになるのも已むを得ない、若し日本の支那に對する建設が、所謂長期に亘るものといふことを言ふなら…

長期に亘っても徹底的にやる

短期こそ國民の希望

半島に寄する言葉

小林一三

觀光半島の宣傳は主眼點を平壤に

見事な慶州の佛像と高麗燒

私は朝鮮に未だ一度しか行かない。それは昭和十二年五月のことであつた。釜山から江原道の方面にゆき、慶州、佛國寺から京城へ…

私の日記から

…れない。其場合には日本は持たざる國としてよりも、持てる國としてあらゆる資源が開發されて居つたかもしれない。誰の罪だとか、失策だとか言ふのではない。漫然と呑氣に暮らして來たのは、一に時代の罪で、今更彼是言うても致方がないが、今日我らが考へゐる…

要素の一つ

十萬キロ

電力會社

採掘權を

實現すべ

最初から

物の原價

元旦試筆

內閣總理大臣　公爵　近衛文麿

寒松聲恩長

文麿

私が半島人から受けたよき印象（1）

颱風の中の金君

藤原咲平

昭和九年九月二十三日の室戸颱風の時のことです。大阪では颱風の爲に數百の學校が倒れ兒童が死んだり、津浪が襲うて溺れた人も澤山あり大變な騷ぎでした。此時大阪測候所内の氣象臺分室には濟州島出身の金君が觀測當番で守つてゐました。同君は此風雨及高潮の中に於て少しも慌てず、風や氣壓や其他氣象の觀測を續け、又津浪が觀測室を襲ひ、床上高く浸水した中で、其水位の高さの刻々の變りを計りました。勿論尺度で一々計る樣な暇はありませんから、晴雨計の吊つてあつた柱に釘で十分毎に其時の水の上面の處へ線を引き、時刻を記して置き水が引いてから其高さを正確に計ることが出來ました。此間に水が差して來てから引いて行つた狀況を細かに知ることが出來ました。金君は氣象臺の模範と稱せられて直に大阪…

親切な青年

高橋英子

子供の手をすべり落ちた林檎がころ〳〵ところがり出したのを拾つてくれたのが半島の一青年でした。ある秋の日光行の電車の中での出來ごとです。これを御縁に、東照宮から瀧の見物、中食までも一緒にして一日の行樂のよいお友達になつたのです。子供の手を引いてくれたり、私がぬいだコートを持つてくれたり大變よく氣のつく親切な方でした。頂いた御名刺がどこかにあるはずだと、古い手匣を探してみましたが見あたりません。若しこの記事を御覽になれば、美しかつた青空に映えた紅葉の色と共に、私や私の子供達のことを思ひ出して下さるでせう。

二度の渡鮮で

西澤笛畝

昨年と一昨年の二度渡鮮いたしまして私の感心した處は、特に半島人とか内地人とか云ふ分れ目がなくなつたことで、兩方から歩み寄つて極めて親密に一つの氣分…

共に進みたい

佐藤惣之助

聖戰の目的達成に何等の不安なし

内務局長 大竹十郎

民間事業の活況に 財界は一段の繁忙

財務局長 水田直昌

承詔必謹

學務局長 鹽原時三郎 ... 鈴川壽男

遞信報國の赤誠に燃ゆ

遞信局長 山田忠次

萬事地味 實踐の時代

學務局長 鹽原時三郎

戰勝の新春 躍進半島

うさぎ 石井鶴三

窪田空穗氏試筆

輝く新春に
若肌を贈る
（朝陽映島）
この年も
あくまで
心を緊めて
あくまで
身嗜みを
忘れず！
それには華美なお化粧など止めて、レートクレームで與から美しい若肌を育くむのが一番理想的です。素晴らしい榮養素の作用で、肌アレや小ジワも解消し、眞に戰時女性に相應しい健康美を輝かしますから

レートクレーム

京城日報
新年號第二輯

僕と朝鮮

菊池寛

僕は、朝鮮に行つたことは、一度しかない。昭和九年満洲へ旅行した時、飛行機で往復したが、その途次往復とも京城で一泊した。京城は、さすがに昔の王城の土地だけあり、カッチリした高雅な感じがあつて、美しい町だと思つた。

また朝鮮の人々も、落付いた感じがよかつた。満洲の支那人、殊に山東出身の苦力を沢山見て来た故か朝鮮の人々の顔が、高雅で文化的に見え、殊に老人などの品のあるには、感心させられた。服装も清楚でいゝと思つた。殊に妓生の服装は、原色を用ゐてゐて、しかも典麗であるのには感心した。

妓生と云へば、京城一泊した時夜二時近くまで、宴席にゐたが、その席上にゐた南山紅といふ妓生が、明朝飛行場まで見送りに来ると云ふのである。日本の芸妓など見送りに来た例がないので、妓生の言葉も、その場限りのお世辞だらうと思つてゐたが、翌朝六時半頃、飛行場に行つて見ると、女中を一人連れて、見送りに来てゐたのには感心した。しかも、人目に触れるのを避け、遠くの建物の蔭から、見送つてゐたが、その純情と優しさとには、心を打たれた。たゞ、三四時間、酒席で会つた丈なのであるが、今だに、その名前を覚えてゐる所以である。

自分は、朝鮮の青年には、昔から好意を持つてゐる方で、今モダン日本を経営してゐる馬海松などは、十七歳の少年の時から、十五六年世話して来たわけだ。

彼は、眉目秀麗だが、頭脳も明晰で、よく一雑誌を経営し、今日とにかく成功の域に達してゐる。昨年、やはり朝鮮出身の[illegible]氏と結婚したが、僕の家で僕夫婦の立会で結婚式を挙げた。新婦も気品のある美人で、此の才子佳人から、どんな子供が生れるだらうかと楽しみにしてゐる。

自分は、朝鮮が日本と合邦して諸事一体となつた以上、もう少し朝鮮出身の人々が、日本の政界、実業界、文芸美術方面に活躍してもいゝのではないかと思つてゐる。だが、現在では東京に於ける朝鮮出身の名士など、殆どゐない。舞踊の崔承喜や拳闘選手、野球選手だけでは心細い。もつと、いろいろな方面で活躍する人があつてもよい。

朝鮮びゐきの僕は、その意味で[illegible]には、[illegible]をしてゐるが、さうした意識も常に盛況で、日本の大衆の間には、朝鮮に対する理解と同情は、充分あるやうである。

今度の事変で、半島に於ける銃後の赤誠が、いろいろな方面で発揮されてゐると云ふ事実は、大いさゝか内鮮融和のために尽したいものにとつては喜ぶの事である。

しかし、まだ言葉の相違や、風俗の相違などから、感情の乖離を惹き起すことがないでもない。

僕が最近まで、書生として使つてゐた半島出身の卞と云ふ青年があるが、此方が坐つてゐても、いつも立ちたから、物を云ふのである。僕の家では、礼儀作法など、一切メキなので、注意しなかつたが、僕の家を出て、外に行く場合には、注意したいと思つてゐた。

所が、その話を前に書いた馬海松にしたら、馬海松が（朝鮮では目上の前では、坐れと云はれなければ坐つてはいけないのですよ）と、云つたので、へゝアなるほどと思つた。しかし、から云ふ風俗の違ひから、いろいろな誤解も生じ易いのであるから、内鮮人ともお互ひを充分に理解し、お互ひに充分反省することが必要であると思つた。

懐しい京城よ

濱本浩

去年は、遠いところへ旅をする機会が多かつた。三月から四月へかけては、京城から国境の満浦線まで歩き、九月から十月へかけて、揚子江をのぼつて、田家鎮まで往復した。

朝鮮の旅は、鉄道局の招聘で、朝鮮の小説を書くためだつた。支那の旅は、内閣情報部からの派遣で、海軍の遡江部隊に従軍したので、何れも自由気儘な漫遊と云ふわけにはゆかなかつたが余暇を利して、その土地の風物に接することも少しはできた。

支那の記憶はまだ、なまなましく残つてゐるが、さても一度行つてみるかと考へると、戦後工作と云ふやうな特殊な情況を観るためならば勿論行つてみたいが、たゞ漫然と遊びにゆく気はしない。

古都南京も、戦争に破壊されて居た為めでもあらうが、何うも安手の支那街か何かを見るやうな興はしさで、大した魅力と云ふやうなものはなかつた。殊に、国際都市上海ときては不潔で、出鱈目で、植民地文化の背徳面ばかり見えて、二度と行つてみる気はもちろんしない。

それに反し、朝鮮の記憶は、半歳後の今日、なほ楽しく懐しく心に残つてゐるのである。敢て、この感想を発表する京城日報が、朝鮮に勢力をもつてゐるために、場当りのお世辞を云つて居るわけではない。

この間も、私用があつて、九州へ行くはずになつて居た。九州へ行けばたつた一夜のことだし、海峡を渡つて、せめて朝鮮の土を踏んで帰らうと楽んで居たが、家内に病人があつて、その旅行を中止したので、紅白のチマや、人懐こい鵲の囀を聞く機会を失つたわけである。

朝鮮ホテルのロビイを私は、ときどき思ひ出すことがある。硝子戸ごしに熱帯植物の美しいベランダを眺めるロビイ、結婚式の花嫁のお友達と、裳の長い中間服の元老達が、時代的な対照を見せるロビイ、そこで、ゆつくりと食後の煙草を喫んだ一刻を思ひ出すのである。

ホテルはまた、佛蘭西教会の館の音を聯想させる。自動車の警笛が耳に残つて居る。東京では、電[illegible]を持たぬ。ちらと見て、自動車が接近して居なければ衝突の恐れはなしと安心して居るらしい。

友人李瑞求君に案内された朝鮮の北京料理店の窓から、ふと外を見ると、民家の甕の臺に李花がほのぼのと咲いて、黄昏が静かに迫つて居た。私は、そのとき程黄昏の哀れを感じたことはなかつた。

李君は、ある日、私を朝鮮券番の妓生学校へ連れて行つた。そこには、妓生の卵がうようよと楽器や踊りを習つて居た。誰も彼もひどく裳が長いので、聞くと、みんな姐さん妓生のおさがりを貰つてつけて居ると云ふ話であつた。

スリチビの薄暗い土間も、今から考へると、「夜の宿」のセットのやうな気がして面白い。同行の東郷青児画伯は、牛頭だして、さかなを摘まみ自分で焼いて食べたが、私は駄目だつた。

京城に着いた晩、同僚の寺田瑛前田東水両君と鍾路の夜店をひやかして居ると、背後から肩を叩く者があつた。驚いて振り返ると、東郷夫妻と、山口、李両氏だつたので、思はぬ奇遇に驚き、大騒ぎでしやべつて居ると、あたりは真黒な人集りになつた。上海あたりでこんな集りがしたら掏摸に乗じ三つ四つ奪られたかも知れない。

京城に居る間、暇さへあれば、本町の賑かなカーヴを持ち、屋根の高さと町幅に、適当な調和があつて、歩いて居ても落着いた気持になつた。内地で云へば、神戸の元町と云つた感じである。銀座通りは、大厦高楼が薇襲さるやうだし、電車がガタガタ走つて居るし、カーヴの美しさもなし、散歩街としては、京城の本町に劣るやうな気がした。

京城の喫茶店には快適なものが[illegible]居でも、写真館へは二三度はいつてみた。不思議に思つたのは、ニュース映画に近衛首相が出るところで、脱帽さしたことであつた。その他は、東京の映画館と何の違[illegible]音を聞き、たゞ一人で、場末の町を歩いて見たい。この間は整備がなくて見られなかつた博物館も、ゆつくりと観たいと思つて居る。

慶州の石佛

平山蘆江

慶州といふところは横道になつてゐるせゐか、どうも内地の人にも朝鮮の人たちにも閑却される。私たちは、もう少し慶州に留意しなければならないのではないか。

いふまでもない、慶州は新羅の国都で、新羅五十二代の開祖は素盞嗚尊であり、素盞嗚尊は天照皇大神の弟御であらせられる。も一つ云ひかへれば、日本と朝鮮の民ははつきり同族のつながりだといふ事だ。

三四年前、朝鮮へはじめて渡り慶州へ行つた時、何かにつけてこの事が思ひてある。それだのに、内地ではそれを忘れがちであり、半島の人々も、この事については、とんと無関心である。

慶州を見て、新羅王の祖先を考へつゝ佛国寺へゆき、石窟庵へ上つたが、あそこの石佛を拝んでゐる中に、妙な気持が起つて来た。石窟庵の石佛は[illegible]の慶州を背にして立つておいでになる。こんな例は滅多にない事だ。なぜ東方慶州をうしろにしていらつしやるのかと思ひ、あの山で聞いて見ると、思ひがけない返事があつた。

「此の佛さまは日本の出雲に面して端坐しておいでになります。石佛の膝下に、満々として突入してゐる海は、これを迎日湾と名づけます」

といふ事だつた。

思ひがけない返事をした気持で、もう一度石佛の由来書などを読むと、約千二百年くらゐ前に新羅王が建造した佛など書いてあり、地図をひらいて見ると、なるほど迎日湾を通して、この石佛の面してゐる地点は、出雲の国の日の御岬に当つてゐる。佛像の前に立つてゐる中にも、云ひ知れぬ感じがひしひしと胸に迫つたが、地図の上に日の御岬と迎日湾の間に、一線を劃してよくよく地図を見なほすと、内鮮間に相通ずる一脈の親しみが、滔々として湧いて来る。

一体、千二三百年前といへば、日本側は天平勝宝などの年代であり、新羅は亡滅に迫つた時分だ。亡滅を目前にひかへて、新羅王が、こんな佛像を建立するといふのは、只漠然たる気持ではなささうに思ふ。不遇に終りさうな自国を後方の侵略者から救ひ出す為に同根の日本国へ、よびかけた何かの表現がこの石佛になつてあらはれたのだと、解するのはこじつけであらうか。一方は日の御岬であり一方は迎日湾である事も、何か因縁的であり、何は更に、両者の因縁に深さを見出す事は、天平勝宝時代の日本王朝人の服装が宛ら、朝鮮人の服装に酷似してゐる事だ。王朝人の服装にかりでない、一般庶民の服装も、王朝時代の日本人は、今、朝鮮人の間に頒つてゐる服装風俗に一番よく似てゐるし、生活様式までも、似てゐたのではないかなど思はれるのだ。

もし、京城日報社の力によつて石窟庵の石佛参拝が、もつともつと宣伝されたら、そして、内鮮相互の人々が、あの石佛について深い関心を持つたら、内鮮一如の心持を助長する最も好適なよすがとなるのではあるまいか。特に京城日報社の人々と、京城日報の読者諸氏に献言する次第である。

新文化の創造

秋田雨雀

私は先般「緑旗聯盟」の一行とともに朝鮮を旅行して、非常に得るところがありました。私は実は、東京と京都の友人たちから、三つほどのテーマを与へられて京城駅に下りたのでした。しかしそのテーマの一つ一つにも解答を持つて来たとは思いません。たゞ、その代りに、朝鮮の人々の私たちに与へてくださつたあり余る好意に対する感謝の念で一杯にされて帰つて来たといふことだけは明瞭にお答え出来るのです。

私は一体、物を好意的にばかり見たがる人間（つまりお人好し）だと友人たちに批判されていますが、私は昔から朝鮮の人達から親切にこそされたが、一度も裏切られたこともなければ、軽蔑を浴びたこともありません。私は正直に言うと、朝鮮の政治のことも、経済のことも知りません。（今よう少しづゝ勉強して居るところです）が、文化人として、内鮮両面の芸術家たちが協力して、新しい文化を創造しなければならないし、その可能性はすでに発見していることを確信しています。そして、この確信から現実の朝鮮を見て行きたいと思つて居ります。近日何か適当の感想を差上げましよう。

初吟

臼田亞浪

朝鮮の想ひ出

加藤武雄

寺田さん。

先日はいろいろ御厄介になりました。おかげ様で、大へん愉しい朝鮮の三日間でした。

十年前の朝鮮は、禿山ばかりの暗い朝鮮でした。それが今度行つて見ると、すつかり緑の朝鮮になつてゐます。北部平壌あたりには盛んな工場地帯が出現し、やがて黒い朝鮮にさへなりかけてゐます。驚く可き発展ですね。

京城では、徳寿宮など見せて頂きましたが、朝鮮の建築は、支那のそれほど重々しくなく、人を圧迫しないところが好もしいと思ひました。高麗の古陶なども同じ感じですね。

アリランの歌といふものも、しみじみときいたのは今度がはじめてです。伽耶琴にあはせて歌ふ南方の歌謡には、なかなか高趣な調がありますが、アリランの歌には哀しんで傷らずといふ趣がありますね。青い空には星が多い、人の世界には嘆が多いといふ歌の文句など、単純で樸素で、なかなか味が深い。アリランの歌もいゝが、妓生といふものも大だ好もしいものでした。殊に、平壌の、あの浮碧楼の丹の丸柱のあたりに見た艶々たる姿など、さながらにして王朝の夢の一片です。上衣と裳との色彩のとりあはせなど、皆それぞれ美しいものでした。日本の芸者などよりずつとしとやかで、動作などにも優雅なリズムがあり——などと云ふとあまりほめ過ぎるやうですが、妓生といふものは何か国宝的な存在だと思ひますね。いや、李朝文化の生ける記念としてこれは是非永久に保存しておき度いものです。

京城も、なかなかいゝところですが、平壌は実に美しい都会です。牡丹台など、古戦場としてあんな景色のいゝところは外には無いでせう。綾羅島、錦繍山の美称にそむかずと云へるでせう。開城の松都に対して、柳京といふ雅名もいい。柳京竹枝といつた風の歌でもつくれたらつくり度いと思ひましたよ。

開城で、古朝鮮のおもかげを見得たのも、みな、貴兄や前田君のおかげです。あの満月台あたり、いかにも廃墟の感じ深く、あの辺の水のきれいな砂川で、きぬたを打つてゐた朝鮮の女たちの姿など今でも眼に浮んで来ます。[illegible]いまにあとをとゞむるといふ鄭夢周の古蹟善竹橋も感慨深きものでしたが、あの丘の上で、弓を射てあそんでゐた両班達にも古い朝鮮がはつきりと残つてゐました。古い朝鮮といへば、平壌の箕子廟も正に古蒼茫々でした。

京城では、李[illegible]君や李無影君にもいろいろ御厄介になりました。平壌の増田さんにも御厄介になりました。増田さんは物静かな好紳士ですね。あゝいふ風の教養館かのうるほひになります。増田さんのライブラリイを拝見出来なかつたのは残念でした。

増田さんは吉野博士に師事された方のやうですが、故吉野博士が内鮮融和に努力された功績は実に大きいと思ひます。僕は、京城では、両班と称名され、朝鮮服が似合ふだらうとひやかされましたが僕にはどうも朝鮮的テンペラメントがあるらしいのです。あまり強く己れを主張しないやうなところ[illegible]感情として迫らざるところ、さういふのを朝鮮的といふならば、僕は少しも朝鮮的なものを愛する。これは何もお世辞やお座なりではないのですよ。

[illegible]術も、大同江の流れに、表面はゆるやかに見えても、底流は急だといふ事をもきゝました。そして何かいろいろ考へさせられました。

それにしても、今度の事変について、朝鮮・同胞達が、皇軍に対して非常な熱意を示されたといふ事は実に喜ばしい。

アリランの歌といふものは、実際にきかないうちは、もつと哀調の深いものだと思つてゐましたが、きいてみると、それほどでもなく、むしろ、明かない感じさへしました。あの歌が、もつと明るい調なものになつて行くやうにと祈り且つ、なりつゝあると僕は信じます。

前田さんにもよろしく。本当にいろいろ御厄介になりました。来年は、満洲の移民地再視察の為め、もう一度渡満するつもりです。その時は、北鮮から国境へのコースをとらうと思ひます。そして、そのついでに、金剛山を見度いと思つてゐます。朝鮮にも大兄や新妻さんがゐるし、李無影君のやうな人もゐるし、何だか非常に親み深い気がしてゐます。

とりとめの無い事を書きました。では又——。

【写真＝平壌牡丹台の博物館前に於ける加藤武雄氏】

開花三世相 (73)

村松梢風 作　中一彌 畫

けふまでのあらすぢ　頃は幕末六千石の旗本[illegible]甲斐守の息子雅之助は元小普請組の御家人の娘美女お町と恋する、お町の兄森原左文治は硬派の不良、甲斐守の妾お輔と共謀して稲葉家から廿五両をゆすり取る。お輔はかねがね雅之助に道ならぬ恋慕に[illegible]にはねつけられるが、雅之助は別荘住ひとなる。一方お町は大奥の女中となりそのうちも御前試合の日雅之助はお使番米津大膳の二男民次郎と立合ひ見事に勝つた。失意のお輔と民次郎に含み合せて雅之助を暗殺せんとして失敗するが、丁度その日かねがね雅之助を恋してゐた大老歌橋に大奥へつれ込まれる、一方お町は将軍家の意に従はず日々折檻を受けてゐるがたまたま大奥に大火あり、お町、雅之助は逃れ再会の悦びにひたる。時代つて[illegible]、[illegible]小松は[illegible]玉川清兵衛に[illegible]手込めにあはんとするが小松とは何者？……

舊知（二）

呼び留められたのは、森原左文治だつた。左文治は、おせきの顔をシゲシゲ見て、

「ヘテ、見たやうだが、誰だつたかな？」

「ホホホホ、森原さん、なんぼ赤の他人でも、顔まで忘れるとは、[illegible]」

[illegible]をつけ、三両騙つた宿の相手の玉川屋が黄瀬川の旦那であると分つては流石の左文治も極りが悪い。それに左文治は、此処では云はれないが、もう一つ此の男とは妙な因縁があるから、早々此の場を立ち去らうとすると、おせきが

「あら、森原さん、どうしたと[illegible]いふんでせう、何もそんなに逃げ出さなくつたつていゝぢやありませんか。旦那も森原さんも御存じなんですか」

「いや、知つてゐるといふ程ではないが、実は、此の仁には、少々ばかり無心を云つたことがあるのだ」

玉川屋は笑ひ乍ら

「森原さん、あの節なら別にお気に掛けて下さらなくても、私の方ぢやあ、何んとも思つちや居りません。それに、おせきがお心易い間とは今日迄少しも存じませんでした。ならおせき、久し振りで森原さんにお目に掛つたことだから、こんな処で何にもないけれど宿へ御同道願つて、一口差し上げたいと思ふが、どうだらう」

「それは結構でムんすわ」

「ねえ、森原の旦那、私は直ぐ其処の温泉宿へ来て居りますが、丁度退屈で困つてゐるところ、何も御馳走は出来ア致しやせんが、暇ぐらゐなら割かせます。お急ぎでなければ是非お寄りを願ひ度うムいやすが」

「別に急ぎの用もムらんが」

「森原さん、其の後のお話もありますから是非、寄つて下さいましよ」

と、頻りに二人が誘ふので、左文治は些か迷惑だが、断り兼ねて温泉宿へ伴はれて行つた。

[illegible]あんまり調子が過ぎますよ。豊丹屋で、しよつちうお目にだけ掛つた黄瀬川ですよ」

「おう、成程、黄瀬川さんだ、あんまり御装が違つてゐるもんだから見違へてしまつた」

「貴郎が、お職の雛鳥さんの店へせつせと通つて入らつしやる時分は時々玉を附けていただいたりしてお世話になりましたが、森原さんはあの頃とちつともお変りなさいませんねえ」

「イヤヘヤ、大層古い話を持ち出されて面目ない。併し、お前さんは幸福らしくて何よりだなう」

おせきは、清兵衛の方を向いて

「旦那、此のお方は、お直参の森原さんと仰しやつて、以前、妾が御贔屓のお方なんですよ」

「さうか——これはお初にお目に掛ります。手前は玉川屋清兵衛と申す町人、どうぞ宜敷く」

と、云ひながら相手の顔を見て

「おや、貴郎様は何処かでお目に掛つたやうな気が致しますが……」

「さう云へば拙者も……」

と、両人は暫く顔を見合つてゐたが、清兵衛はやがて頓狂な声で

「あつ、思ひ出した、貴郎とは確か去年の夏頃、新宿の芳野で——」

「おう　あの時の？[illegible]」

賀戰捷之新春併而謝皇軍之奮鬪

大竹十郎　宮本元　穗積眞六郎　湯村辰二郎　鹽原時三郎　三橋孝一郎　水田直昌　山田忠次　鈴川壽男　松澤龍雄　高橋敏　西岡芳二郎

見目德太　武者錬三　菊池一德　井上主計　野田新吾　中間高州　朴興植　竹內健郎　淺野太三郎　上內彥策　伊森明治　白石甚吉

鈴木文次郎　小林源六　西本計三　油井岱治　西龜三圭　古川兼秀　下村進　伊藤泰吉　金大羽　高尾甚造　松本誠　森浦藤郎

井芹正　山下眞一　橋本左太郎　下飯坂元　岸勇一　美根五郎　梶川裕　木野藤雄　鹽田正洪　山地靖之　奥村重正　山名酒喜男

高木德彌　榛葉孝平　林勝壽　柳生繁雄　丹下郁太郎　藤本修三　井坂圭一良　碓井忠平　宮林泰治　三輪邦太郎（京城・三越）　田中忠治　野坂三枝（京城府立府民病院長）

澁澤芳三　山本薰（京城府明治町二ノ八七）　大久保眞敏　河野又一（京城府公平町六三）　新田留次郎　柳樂達見　金一泳　大熊宗平（京城）　野路一雄（日本勧業証券株式會社京城支店）　德永勳（京城府西小門町）　山岸勝（千代田生命京城支部長）　加納一米（京城）

和田八千穗（京城）　諏訪藤之助　安田宗次　齋藤久太郎　佐野義雄　渡邊龍　鎬木德二　吉川宇造　高橋省三（京城）　木村和水（京城）　香月五郎（三吉ネクタイ店）　本田建義（京城）

大陸建設と朝鮮經濟

朝鮮銀行總裁　松原純一

戰勝第三年

物資供給の

輸出重要品

朝鮮財界は

統制經濟と新重農主義

經濟學博士　土方成美

綜合的經濟

統制

生物

賀戰捷之新春併而謝皇軍之奮鬪

仁川[illegible]長 高橋宣郎

仁川山手町 梶谷[illegible]風[illegible]場 電話八八二番

仁川府本町 中川勝美堂 電話三四一

仁川府仲町三丁目 日下部商店 小畑盛義 電話六五六番

仁川宮町一七番地 虎尾商事株式會社 電話六二三

仁川松町三四 バケツ工場 電話一一六八番

仁川府濱町 旭屋旅館 電話三五一

仁川花房町 府會議員 中條榮藏

仁川海岸町四丁目 海産物商 小川喜三郎 電話六一〇

仁川府宮町 磯永洋服店 電話二一五

官鹽販賣 三井石炭 三井木炭 槇商店石炭部 電話一〇二六番 仁川本町

仁川旭町三六 藝妓 芝もと 電話四八一

仁川宮町 石材 岩崎政介商店 電話四五五番

仁川本町安田ビル 司法書士 橋本三佐武朗 電話一二七一番

仁川 華商商會

仁川府濱町一九 劉君星材木店 電話四一六番

仁川府西京町郵便所 所長 佐藤滿賀

仁川宮町通 嘉納合名會社 白鶴仁川出張所

仁川府宮町 合資會社 星光商會 電話一一一番

仁川花町一丁目七 飲料水製造 海産物 平山初次 電話一五三

仁川本町一丁目 藤木商店 電話四〇番

仁川府本町四丁目 河野自轉車店

仁川府本町 帽子商 八木與一商店 電話五二四番

仁川花房町 山口製油所 電話五八七

仁川本町 府會議員 大石季吉

上仁川驛前 和洋藥品 賣藥 化粧品 中外藥房 電話七八七番

仁川新町 食料雜貨 中村覚一商店 電話五三七番

朝鮮郵船仁川出張所 所長 石橋

仁川本町 福島邦一商店 電話一〇一四番

仁川府本町四丁目 松本紙店 電話二六八番

仁川 府會議員 小谷益次郎

仁川山手町 御料理 うろこ 電話六八

仁川宮町 西洋料理 東洋軒 電話九一九番

仁川金融組合理事 上野進一郎

仁川松峴尋常小學校 校長 向井最一

仁川海岸町 金剛アパート 電話一八五

仁川府西京町通 組布商 安榮社 電話三〇七番

仁川府本町三ノ一 丸中 丸三運輸組 電話三四五番

仁川府港町穀物協會內 穀物委託業 勸業所 電話三二七 三五三番 本所仁川府港町

仁川府海岸町三丁目 新報商會主 金元國 電話一〇六九番

仁川沖町 淺岡旅館 電話五三番

仁川府海岸町 米穀肥料委託問屋 河村宗七商店 電話一〇一三番

仁川萬石町 高杉醬油醸造場 電話七六五番

松島遊園株式會社 社長 永井市太郎

京畿道立醫院 職員一同

仁川新町 仁川葬儀社 電話八二九番

仁川府花町一丁目 土木建築請負 光田新太郎 電話一三六番

仁川大和町 谷本茂三郎 電話七五三番

東洋紡績株式會社 仁川工場

仁川穀物協會內 米穀仲立業 ㊆仲立組合 木下德三 田岡留吉 木村爲一郎 電話六四番・長武三九番・五七七番 電略(七)受信略號ニンセン チウリツ

仁川穀物協會

仁川敷島貸座敷業組合(いろは順)
入船樓 電話六二二
常盤樓 電話三〇二
大黒樓 電話八〇一
丸山樓 電話一、一二五
松山樓 電話七一一
敷島樓 電話五三三
新富樓 電話五〇三
一二三樓 電話四二六
安樂樓 電話一、一五一

仁川府萬石町三三番地 各種特殊鋼、鑄鋼、部分品、鑛山用諸機械 株式會社朝鮮製鋼所 電話 一、九五番 一、〇九九番 特二三〇番

松島遊園株式會社 松島觀光株式會社

仁川本町 朝鮮中央無盡株式會社 仁川支店 電話長七六八番

仁川 朝日釀造株式會社

仁川府會議員 生田鐵造

仁川府新町四六番地 米穀精米商 松茂精米所 電話三三一番

仁川府本町四丁目 千鳥正宗支店 電話三五九番

仁川府龍岡町一 松島自動車株式會社 社長 荒木武二郎 常務 [illegible]旭鉉

仁川府港町一丁目二番地 合泉鐵工所 李河泳 電話六五三番

仁川松坂町 アイケー石鹸 マルイク石鹸 アイケー蠟燭 元賣 愛敬社 電話三一四番

仁川港町 仁川汽船株式會社 電話五一番

仁川府商工會議所議員 櫻井恒夫

仁川府大和町 おたふくわた 株式會社仁川支店 電話七五七 一三六三

朝日タクシー 上仁川營業所(電六三一九番 六六〇番) 本町營業所 五九〇番

穀物檢査所 仁川支所

三井物産株式會社京城支店 仁川派出員 新川儀一郎

商工會議所議員 浦上七三生 仁川府本町四丁目

忠北米穀販賣斡旋所 仁川府濱町拾番地

仁川宮町 御料理 さらく 電話四〇八

京仁線朱安町 精米業 渡會儀市 電話仁川一〇四八番

仁川質屋組合

仁川公立商業學校長 木村芳郎

仁川 代田繁治

仁川警察署長 二瀬一二

朝鮮總督府觀測所長 川野昌美

京畿道產業株式會社 仁川支店 仁川府海岸町

仁川府本町二丁目 仁川朝鮮酒販賣株式會社

仁川府港町一丁目 森信運輸株式會社 電話一二三七・長一六三

仁川船具金物商組合(イロハ順)
池末船具店
大井金物店
横田船具店
村谷吉藏船具店
村谷勘一金物店
松本金物店
内田金物店
姫島船具店

仁川 朝鮮燐寸株式會社 支配人 江川洋 電話一五一番

仁川花町三丁目 合資會社 中村組出張所 電話八六八番

大阪商船株式會社仁川代理店 株式會社 慶田組

仁川郵便局長 山口政一

仁川港町一丁目 三榮組 福島喜太郎

仁川府商工會議所議員 金炳峻

仁川仲町 海産物 雜貨卸商 南方商店 電話一六六番

王成鴻 仁川府花房町

仁川府柳町 丸一精米株式會社

仁川土木出張所 所長 福井靜

仁川商工會議所議員 齋藤二郎

株式會社朝鮮海洋社 取締役副社長 今村覺次郎 支配人 東鄕重人

朝鮮第六區機船底曳網漁業水産組合

仁川萬石町 天野秀一

仁川花町 杉野榮八

仁川 松屋吳服店 電話八二一・八三番

仁川港町一丁目 清水商會 電話長六一

仁川海岸町一丁目 庄野仁川支店 電話長五四番

仁川京町 合名會社 玉植商店 電話六五番

仁川府尹 永井照雄

仁川府會議員 仁川商工會議所副會頭 吉木善介

仁川府新町 活動寫眞常設館 瓢館 館主 新田又平 電話四一〇

月尾島遊園株式會社 取締役會長 吉田秀次郎 專務取締役 今井省三

仁川仲町 川口病院 院長醫學士 川口漁夫 電話一二三六・一二七八

仁川府仲町 澁谷商店 澁谷百太郎

朝鮮精米株式會社 仁川支店

仁川府海岸町四 回漕業 野口商會 電話二七三四・五七三・七五〇番

仁川醫友會(イロハ順)
森廣城佐牧莊河米西岩岩
下兼戸藤瀬野 山野 永 井
喜寅誠主武啓 野宇入 勝 計 佶貞 三
義雄一一廣司了司澄七郎

仁川稅關長 武田鐐太郎

仁川木材商組合

日鮮海運株式會社 專務取締役 浦崎政吉

京城府長谷川町二一番地(富士ビル內) 株式會社朝鮮機械製作所 電話 本三五〇一番 本五七六四番

朝鮮取引所仁川支店 理事兼支配人 田崎藤雄 支配人代理 澁谷鍔

朝鮮木材工業株式會社 本社 京城府長谷川町(富士ビル) 工場 仁川府萬石町

仁川銀行團(イロハ順)
朝鮮銀行仁川支店
朝鮮殖産銀行仁川支店
朝鮮商業銀行仁川支店
朝鮮貯蓄銀行仁川支店

仁川府濱町一丁目 大和組 電話五三八・二八一

仁川府濱町 株式會社 福島組 電話五三五・五三六

仁川府本町四丁目 株式會社 朝日組仁川支店 電話五二九・九六四

新春女流隨筆集

懐かしき國

長谷川時雨

木浦の島かげ

わがくにの古代の姿をさぐるには、朝鮮を見ることは、大きな興味だと思ふやうになってから、でももうかなり年月がすぎてしまった。いたづらに、今年は、來年はと思ひながら、行くときを失なってゐる。

たった一度、行ける機會に廻りあはせたのだが、連れが東京へ早く歸りたがったので、北支だけで止めなければならなくなって、その時の旅行のよていは半分はたされなかったわけだ。尤もその當時支那軍閥同士の戰爭で山海關邊が通れなくなったことも、行けなくなった原因にはなってゐる。

そんなわけで、朝鮮の島かげを、汽船のなかから見て過ぎただけだった。しかし、わたしは木浦あたりの景色を、懐しく眺めてゐた。瀬戸内海をあとにして、玄海灘も左に屏風のやうな半島の横顔を見るやうになると、海の色にも、景色にも、どこか錆をふくんだ色彩が添って、深みがあるといってよいか、やゝ沈んだ調子に思へたのは、その日の陽の照り曇りによったのか、ともあれ木浦は右側にあって、汽船はその間を通ったわけだった。

晩春のことで、おなじ海路を、歸りの汽船のなかで

朝鮮の木浦あたりの島かげに
ともに若なん人はあらじか

たしか、そんなふうな下手な歌みたいなものを口ずさんだ。旅たちは笑って、またしても朝鮮の子のやうな空想兒が、春の海の霞を吸って醉ってゐるといったが、ともかく木浦といふ島のある工合と、島のかたちは氣に入ったのだった。

樂浪出土の朱い珠

朝鮮に、心をひかれ、なんとも行って見ると、進めるものに、それが生きた人の口でなくって、古いく樂浪の出土品がある。それの、どの一品にでも、古へを語られぬものはないゆかしいものであるが、その中でも種々の頸飾のはいった手頸などを見ると何か騒がせまる氣がする。

ある折、指輪や、耳飾りの、金色が褪色した品々の中に、頸環にしたであらう幾顆かの玉を見た。そのなかの、琥珀の質のやうな一つぶの、眞赤な玉の美しさ——その色といひ、その小たちといひ、細工といひ、今日のいみじき工人が磨きつくったといっても、これほど繊細な美妙な美しさは、すくないと思ったほどだったしかも、その琥珀の質のすこし大っいほどの朱い玉は、琥珀だといふ識にめづらしい、ガラス玉であった。幾千年も前の美女が、頸に飾りした飾りの玉と見てゐるうちに、それは、美女の膚からこぼれて、白い肌を染めた眞紅の、血のしづくのやうにも思へて來たりした。

血のつながり……アジアの人々には、アジアの血が流れつたはってゐる。あっちへ行き、こっちへゆきして、種族の血は、混合してゐる筈だ。たとへば、わたくしはアリアン系の顔貌だとよく言はれた。洋裝より朝鮮服の方が似合ふだらうと、年若いころから言はれたが、日本古代の服裝からいへばそれも當然のことで、當り前だと思ってゐる。

官妓の舞

あれは、もう二十年も前にもなるであらうか、大震災よりずっと前のことであったかと思ふが、現今の丸の内、東京朝日新聞社に、以前の有樂座があったころ、朝鮮から官妓の一行が、舞踊をもって來てくれたことがある。

わたくしはその折はじめて、朝鮮の、古來から傳はる、眞に、系統のよい舞踊の數々を見せてもらったのであった。この官妓たちは王宮の官妓で、當一方に育てられた人たちだといふことであった。そのためか、わたくしは「僧舞」といひ「劍の舞」といひ、今もって、誠に異趣豐なものを心に殘してゐる。その時に受け入れた面白さの深くなったせゐか「僧舞」などは推求者のは力があり、蘊深究のも面白いと見るが、よかったと思った第一印象は中々薄らがない。

尤も、その時のは、一團が、舞踊と、古い朝鮮舞踊そのものに解けあって、樂座の人たちから、歌の人たちまでが、揃ってゐたのだった。衣裳の好みも、舞の曲のつくりもうなづけたものだった。樂器を司る老樂人たちの古淡さ、練磨しきった耳律の正しさ。そして、舞姿の横に正面をむいて、立って唱ふ歌妓の清麗さ。なにがゆゑに清麗だったかといへば、舞妓に研きゆづって、いかにも楚々とした粧ひであり、白粉や紅の濃くないのもよかった。

すべてが生々しくなく統一されたなかに、若き女の歌が、四肢の動きが、そのなかにつゝましく流れてゐる良さ、樂しさ。わたくしには忘れがたいものゝ一つになってゐる。ことに、その名は忘れてしまったが、落葉色の上衣に、おなじ色に帯みをかけた、裳をつけて、悠揚と、そのくせ、すこしの當然ひもなく、歌詞をうたってゐた歌妓に、耳とともに、ともすれば眼をとられがちだったのを、今でも、これを書きながら思ひ起してゐる。朝鮮へいったら、もう一度、あゝした座組の、眞の朝鮮舞踊を見られるであらうかと思ふと、それも、見にゆきたいものゝ一であるか、二であるか、三かに指折るものであらう。

青玉の笛

深尾須磨子

これは私の女學校時代の話であるが、朝鮮の地理を教はつた時に、その産物の中にめんたいと云ふのがあって、そのアルコール漬になったのを見ながら、先生の説明を聞いたものである。何しろ三十年近くも前のことで、その頃は容易にめんたいの子など手に入れることも出來ず、たゞ先生の說明をとはして、めんたいそのもの以上に珍重されるといふその腹子の風味を、とやかくと空想するにすぎなかったが、しかしその時教へられためんたいの名は、いつ／＼までも不思議に記憶にのこってゐて、鱈の子なども見る度にふとそれについて想像をめぐらすやうなことも再三であった。

ところで、この頃ではそのめんたいの子も内地にゐながらたやすくいおいしいのが手に入るが、からして、めんたいの子はいつの間にか、私の好む冬の食膳の中から缺く食べられるやうになったが殊に私の周囲には、釜山生れの友人かゐるので毎年晩秋頃になってそれが郷里から送られてくると、すぐにおすそ分けにあづかってはあのピリッと胡椒のきいた得も云へぬ味に舌鼓を打つのである。鱈の子に似てゐるが、それよりも一層味が細かって、ちよつと日本酒なかけると更に風味が加はるやうである。寒くなればなるほど、鱈の腹子の離いもの、一つになってしまったらしい。

本紙から、何かしら朝鮮に關る事柄を、と指定されて、まづめんたいの話を持ちだすほどに、私の朝鮮について持合せた知識は乏しいのである。大陸への兩度の往復にも、兩度とも朝鮮經由の方法をとりながら、しかも私は釜山以外の朝鮮の土を踏んだことがないのだ。これはたしかに恥づべきことだと思ってゐる。從って私の眼に映った朝鮮と云へば、僅かに車窓から瞥見した朝鮮の片鱗にすぎず、それさへが記憶の彼方に、ひどくもうろうとしたものでしかないのである。

數年前、シベリア經由の旅を目ざして釜山に上陸した時には、まっ大きな市場に車を走らせて、シベリアの不自由に備へるための食料品を仕入れた。丁度十二月のことであったが、その巨大な市場は大變に混雜で、食料品、山、人、山、しかもあわたゞしいあたりには何となく一種の異國味が漂ってゐた。そこで買ったものは野菜に果物、それから干物にさかな、殊ににさよりの干物が珍らしかったので、かなり澤山にそれを求めた。

車窓から眺めた朝鮮の風景は、あまりにも淋しすぎるやうである。至るところ草ぼうぼうたる野原や荒涼な禿山で、ところどころに介在する村落らしいものにしても、何しろ家並があの通り平坦な朝鮮式で、一見人の住家とも思はれず、たゞ、おびたゞしく並んだ甕類が異様に眼に附くくらゐで、それに郷人の趣を想像させる。

などと書きながらも、私は今更に首都京城すらも素通りした私の冷淡さが悔まれてならない。私が持つ朝鮮の知識は全くゼロである。

この時の旅には、友人と一緒に金剛山登りを企てたのだが、それも何かの準備で果されずに終った。

今のところ、特別私の憧憬の的になってゐるのは、京城の博物館にあると云ふ青玉の笛を見ることである。それは何でも朝鮮古代の名工の手になるもので、世界に一つの逸品だと云ふことだが、笛に殊から關心を持ってゐる私には、それに接し得る日がいかに久しい夢となってゐるか。それにしても、笛も笛、ほかならぬ青玉の笛が、一體どんな音色を秘めてゐるだらう。その歌口に唇をあてゝ、熱したおもひを吹き入れるやいなや、たちまち嫋々ものさびたしらべが流れだす感触は果してどんなものだらうか。朝鮮と青玉の笛、とにかくその二つは、私の心に一つとなって、私をその不思議の國へ誘ふ感である。

日本海を越えて滿洲へ、滿洲へ、それも私の旅心に絶えずこびりついてゐるねがひである。丹波生れの私の甥は、滿洲がまだ荒野原であった時からのその地の開拓者で、まるで滿洲の町を自分一人の手で造りあげたやうに敎へてゐるだけに、朝鮮を愛することもまた實に涙ぐましいものがある。

その甥が送ってくれた滿洲の海膽は、越前のそれに似てそれ以上に濃厚、それから、やはり甥が、自分でしとめて遥々持って歸ってくれた雉の雌、その鮮なかこみながら、私は何となく朝鮮土著、とでもいった一種の淡い匂ひを感じたことであった。

田舎の子供たちが、手などさみに凍瘡を抑ってゐる話、それも朝から聞かされた北鮮のルポルタージュの一つ。それから鶴などもそこいら中にはびこってゐるとのことで、現にその一羽を皮にして送って貰ったのが、まだそのなりで櫃の中に埋まってゐる始末、などと、こんな世迷ひ言を臆面もなく書きつらねてゐると、ますます朝鮮知らずの身のほどが省みられてならない。

朝鮮の響き

生田花世

シロホンといふ、私には懐しい竹の樂器がある。私の住んでゐる牛込、矢來下に町から江戸川の方へと行く町通りの右側の樂器店で、この優雅なシロホンの形がなつかしく、前を通る毎に立止るのが癖であったが、一日、つひにその音響を店の人にきかせてもらった。

その響を聞きたいと思ふものが、間近にあると、このシロホンのやうに、いつかは、その望みをはたすことが出來る。遠いところだと、さういふわけにゆかない。たとへ私がどのやうに熱望しても、朝鮮の妓生のひく絃をききたがっても、その望みをはたすとは出來ない。

最近、先輩の秋田雨雀先生が、『春香傳』の上演で渡鮮し、半島の方々をへめぐり、妓生の舞踊、音樂なども度々見たり聞いたりなすったらしく、此の間おたづねしたら、歸京二日目のトランクの中から、朝鮮風景だの妓生の學校だの、いろいろ見せて下すった。

秋田先生により、私は朝鮮の遠い響きがした。心耳を傾けて、はるかにきく響だった。

まだそこの土を踏んだ事のないものには、甚だ自我流な聽き取り方であらうとはおもふが、とにもかくにも、音の根本は朝鮮にある。

朝鮮は旅行者の口なり文なりを通して、東京へ音響をおくって來る。又、勉強に來てゐる若い男女、移住して來て勞働してゐる人々によっても、その音響を、東京でほのかに鳴らせてゐる。

いつの時代、どこの人が發明したか、わからない竹の樂器シロホンが、東京のまんなかでシロホン獨特の音を發するやうに、半島の人は、半島人獨特の音をまぎれもなく、音させてゐる。

去年の十一月廿日の事だった。麴町にある大妻高女で、國策に沿うての、和服改良研究發表會といふのが、婦人同志會主催で開かれたのに行ったら、私はゆくりなく、感じのいゝ半島婦人と、話し合ふチャンスがあった。

『カルサンと、タッツケとは、どうちがふのでございませうか』

アクセントも、内地人、しかも標準語そのまゝで、三十二三歳とおもはれる夫人が問ひかけたのである。

『さあ、その相違は?』

と、私も、さうした事のくわしい方ではなかったので、丁度、その台の横に、說明の立札があったので

『あれに書けてゐますやうですよ』

私は、こんなに、内地語のうまい夫人が、無教育であるとはおもへなかった。

丁度、その時、むかふ側で、美髯をたくはへた老紳士が、二三人のつれと、一々何かいひつゝ、裙子服を見てゐて、青森縣あたりの、まるでスルメのやうな形の服裝具を洋服の上から背中におよんで、四本の紐をまきつけてゐたらくに、おもはず

『フ、フ』

と笑ふと、朝鮮夫人も内地の紳士のこの愛嬌に親しみニコニコと笑った。

『よく、おうつりです』

『さうかね……いや、ますますおめでたいかし』

スルメをおんぶした老紳士、こちらを見、盛にたえぬおもゝち

『恐しいあまりに、こんな珍品をつくった國だね』

珍品といへば、そこらあたりのもの、一つだって、珍品でないものはない。現代日本服にしてからが、ぬいで、たゝんであると、よと、人間の耳の形が、滑稽に見えるやうに、何やらをかしくなるではないか。

この夜、私は、朝鮮服、支那服、和服改良服を着たマネキン(みな大妻高女生がなってゐた)さんを見て、日本の着物は、朝鮮式、奈良朝時代服裝中の下衣の進歩だといふやうな氣がした。

日本服は優美だといふが、私は自分の目前、健康と正直にいふなら、この夜見た實物からの取捨で、朝鮮服が、ずっと優美可憐だとおもった。紐(朝鮮語で何といふか)が胸でヒラヒラして、可愛いゝと、とにかく朝鮮服の見どころは胸、支那服の見どころは首、それから長い胴、日本服の見どころは、腰、腿によって、女性の肉體のそこここが愛撫を呼ぶ……。

この研究會では、もはや、あの朝鮮夫人を見かける事が出來なかった。もっと何か話したかったのであるが……。

この朝鮮夫人にあったゝめに、その夜、特に朝鮮が親しまれた。

ある時、朝鮮にゐる知人織田□一郎氏は朝鮮の實業雜誌の顧問で、濟州島の髮洗ひの事をのべてゐられた。この髮洗ひは、朝鮮のもっとも優雅い行事だとおもった。

こんな風に、人により、書物により僕はにて來るシロホンのやうな朝鮮の音響を、私は、東京で、聞き洩らさじと傾耳してゐる。

朝鮮に寄せる言葉

白衣は悲しい

若山喜志子

私が半島に旅行したのは何十年も往昔の事故、現今とは大分異った印象が殘されてゐる事と思ひます。それでおたづねの「よき印象」を申すなら、人々の心がコセついてをらぬのに感心いたしました。何事も、『あなたまかせ』といふ氣風が著しく目立ちました。『惡き印象』も多々ありましたけれど、それはこゝに書くのはさしひかへます。

改めて欲しいと思ったことは、半島の人々の白衣でした。あの白い衣服は何となく衰亡の心細い感を與へられ、私にはひどくさびしく思はれました。白色はあまりにも、頽廢的な色だからでせうか。『力』を感じる他の色に替へたいと深く思ったことでした。

敎へられた事

赤松常子

私は、半島出身の金山政男氏に敎へられた事が多う御座いました。金山氏はかつて福岡縣□□炭山の勞働者組織の中心になって一千の勞働者から信頼されてをられました。その識見その人格は困難な勞働者組織をよく指導し、又その手足となって動き眞の指導者の風格をそなへてゐられました。

京城のお嬢様が語る「私のお正月」

(一) 初めての新春

京城銀行檢査役 晨一人氏令嬢　晨燁子さん談

女學校を出まして初めて迎へますお正月でございますもの、それは／＼嬉しくてたまりませんが、また戰地の將兵方の御苦勞により、銃後の私たちがほがらかにお正月を迎へられますことを感謝せずにはゐられません。

制服をぬいで着物に着かへましただけでもすっかり氣分が變って參りましたが、新しくお正月を迎へますと、何だか一足飛びに大人になったやうな氣が致します。時節柄お正月の料理など仕出屋などからとらないで、自分でこしらへてみました、そしてお座敷には藥牡丹を、茶の間には福壽草を活けたりしてゐます。

冬の寒さも雪もこれからでございませう。私は大の野球ファンなので春のシーズンまで待ちきれません、それで冬の間中ぢっとしてゐるのがまどろしくって、頭の上でも春を聞けばもう心は遠い春の彼方に飛んでゐます。早く春が來ればいゝとそればかり願ってゐます、ほんとに欲張り屋さんでせう。

新春歌

岡本かの子

この年の始まる今日の晴なる
陽にこそ向かめわれの面。

この國に照り渡る陽よ年々に
いや高くして光り强まる。

年の輪を増す樹もあらんあたたかき
春の林の繁處を行く。

この國原の今日積む雪の下にして
穀をはらめる土盛り上る。

白雪の積む野に降りて嘴ふよむ
小鳥は轉ぶ木の實のごとし。

賀戰捷之新春併而謝皇軍之奮鬪

水原商友會員（イロハ順）

磯崎健藏商店 電話一〇三番

巴商會洋服店 電話一四三番

加茂百貨店 電話一〇八番

山崎自轉車商會 山崎英雄 電話一五一番

三巴自轉車特約店 松美屋 電話二二三番

愛生堂チエインストア 不二屋百貨店 電話一三七番

天滿屋履物店 電話二七五番

水原料理屋組合長 黑沼力彌

水原驛前 亭田甫

水原驛前 讃岐商會 精米商 井川好太郎 電話二一四番

朝鮮麴子株式會社 水原支店

水原宮町 宮崎商店 電話一五九番

日英米獨佛政府特許 凌雲閣 京畿道水原高野山內 電話二五九番

水原醫師會

京畿道立水原醫院 院長 三木榮

神崎吳服店

水原殖林種苗株式會社

水原郵便局 職員一同

水原城內 割烹料理 一二三 電話一〇一番

銃砲火藥商 野中末吉 水原本町二丁目

水原驛前 昭和旅館 主 宮川とへ 電話三一番

水原邑梅山町二丁目 萩野商店 店主 萩野茂太 電話一三六番

水原 近藤印刷所 電話一七一番

水原酒造株式會社

京畿道會議員 韓光鎬

京釜線水原 南北棉業株式會社繰棉工場

京元線漣川 南北棉業株式會社繰棉工場

精米所 寺澤拾三郎

水原窯業 寺澤拾三郎 朴健緒

水原穀物協會 會長 寺澤拾三郎

喪中に付缺禮 水原金融組合長 車濬潭

水原川改修工場 職員一同

京仁トラック株式會社 水原營業所 電話二〇六番

鐵第一社

水原邑梅山町二丁目 水原製氷工場 電話一五四番

南陽鑛山株式會社

水原公立農業學校

水原公立家政女學校

水原公立各小學校

水原燐寸株式會社

京城電氣株式會社水原支店 支店長 島谷禮二

水原邑

水原國武農場

朝鮮運送株式會社 水原出張所 所長 寺澤拾三郎

京畿道會議員 水原實業協會頭 水龍水利組合長 崔在燁

水原消防組 組頭 青木爲一

株式會社 水原劇場（電話四二番） 社長 洪思勛 專務 井川好太郎

食料品百貨店 水原物産商會 店主 香木一夫 水原邑本町二丁目 電話四八番

水原朝鮮酒酒造組合

水原稅務署

京南タクシー 崔在燁

水原郡生栗共同出荷組合 一手販賣人 國產貿易商會 店主 原口喜一

京釜線水原驛前 土木建築請負 賴岡實一 電話二二二番 電話光一四一四番

京釜線水原驛前 磯野七平出張所 電話二〇二番 振替京城一五五七八番

水原城內 富司亭 電話一四番

朝鮮京東鐵道株式會社 取締役社長 小林幹三 專務取締役 內藤員治

水原郡廳

水原郡農會

水原學校組合
管理者 近藤虎之助
議員 石川喜四雄
議員 橋本銀之助
議員 影山弘次
議員 中島友輔
議員 黑岩晃一
議員 小林五郎
議員 今野耕一
議員 坂手芳夫
議員 三順英雄

京畿道水原邑 株式會社富國園 支店 京城種苗園 支店 名古屋種苗園

水原金曜會

忠南自動車運輸株式會社 禮山營業所 電話一二五番 一四九番

禮山稅務署 稅友會

禮山金曜會

禮山郡公立學校 職員一同

全州地方專賣局 禮山出張所

禮山郡廳

陰城金融組合

忠北陰城警察署長 長崎益三

忠北陰城郵便所長 內田役一

陰城郡陰城面事務所

龍岩浦警察署 職員一同

大正水利組合

龍川郡農會

平安北道水產會 吉田雅一

忠清北道 陰城學校費

忠北陰城邑內 陰城酒造株式會社 電話二三番

陰城警察署

陰城煙草耕作組合 皚煙會 忠清北道

忠清北道陰城 古道兵助 古道節 宮村伍市

京城會社團

東洋拓殖株式會社京城支店

京城電氣株式會社

三井物產株式會社京城支店

三菱商事株式會社京城支店

朝鮮鐵道株式會社

株式會社朝鮮取引所

朝鮮郵船株式會社

朝鮮火災海上保險株式會社

金剛山電氣鐵道株式會社

朝鮮運送株式會社

不二興業株式會社

日滿商事株式會社京城支店

朝鮮信託株式會社

株式會社住友本社京城販賣店

小說 春衣（はるごろも）

清谷閑子

寺本忠雄（畫）

殿堂

「あたしも、京城に住みたくなつたわ、とてもこの風景、氣に入つちやつたわ」

「朝鮮神宮の景色なんか、とても及ばないさ、僕もついこのあひだ京城から、奉天まで會社の用事で出掛けて行つたが、日本趣風の景色は、滿洲に限がない位だつたよ。東京のあの埃りつたらけの濁つた空を思出すと嫌になるね」

「すつかり京城兒になつたのね、ちやあ、東京で好い口をみつけたつて、歸つて來てくれないつもり？」

「さあ、さうでもないが。好い口なんて滅多にないさ。それだし、こつちの方が[illegible]好いよ、[illegible]」

「皮肉ね。ひとりものだなんて。」

紀代子に、彼に下宿住ひさせておく責任が、みんな自分にあるやうに、ふと思ふと、一二と二と、男の言葉に安心した。

二人は京城[illegible]に、新築な[illegible]林に聳へた、黃昏く光る鋪道を、靴の音に揃へて步いてゐた。內地ではまだダリヤが盛りなのに、こゝではもう初冬の銀杏が散る。

つき當りの正面にあたつて、濃藍色に聳えてゐる[illegible]の園下に、總督府の嚴めしい建物は、アカデミックな圓の壁して浮き上つてゐる。京城市街第一の景色だ。

二人は受付けで、紹介者の名刺を差出し、やがて現はれてきた、官僚臭たつぷりの中年男の案內で、その建築の內部を見せてもらつた。

紀代子が最も度肝を拔かれたのは、大理石のあらゆる種類を集めた、中世紀の宮殿をみるその樣式である。その中央に入つたとき、彼女は二人の仲に懸しかけた[illegible]をはねとばし、近代的な張りのつよい眼を大きく瞠らき、ほうつと一と息をつくと、

「まあ、何て素晴らしいんでせう、これ、みんな大理石ですのね、あら、薔薇色、みごとだわ。そしてこれは黑、御影石だわ、あつ、まつ赤なのがあるわ、黃いろ、冴えた黃いろ、まあ、綺麗だこと！」

紀代子は天井を仰ぎ、壁面に觸れ、嘆息し、階段に太柱に、世界にも類のないといふ、粹を蒐めた大理石は、色彩と光澤の美を盡して、燦然として輝いてゐた。

紀代子は床に瞳をひろがへして、[illegible]は、嬉しさうに[illegible]つた。幾何學的に構成された、その大理石の冷たい肌を撫でまわしたかつたのである。

案內のお役人は、若い女にからかはれる建築物が、まるで自分の讚りでもあるやうに、坪あたり何萬圓だとか、數字のリズムをかるく上らして說明をつゞける。

吉瀬は取りのこされて、唖然とした氣持ちだつた。この女が、こんなにまで建築美術が好きなのかしら、こんなに今まで東京の銀座通りを步いたつて、丸ノ內を步いたつて、ついぞ建築を見あげたこともない女が、何うしてこの建物にかりに惚れ込んだのか。

半島娘

むかうの大通りを、[illegible]電車線路を橫切つて、[illegible]つたひに步いてゆく、若い娘がある。

「あら、可愛い娘さんがゆくわ」

紀代子は吉瀬の氣持を和らげるために、素敏く視線を走らせて、かるく肩を聳はすと、なるほど、と彼もそう思つた。

白と紫の服裝の調和は、東京の銀座邊りでみればおかしいけれど、この鋪道の、建物を背景に、それは極めて優雅な色調だつた。

「あの娘さんの服裝、純朝鮮式ちやないと思ふわ、少しスタイルに新し味があるわ、ちよつと、聲をかけてきいて見てよ。」

「冗談ぢやない、僕は朝鮮語は話せないさ。」

「だつて、もしむかうの方で、日本語があやつれたら？」

「……」

彼は女の好奇心に、そろそろ嫌氣を覺えはじめた。だまつて、君ひたりについて來るやうな女を、何故自分は戀人に選ばなかつたか、彼はよくさう思ふのだ。だつて、それも仕方がない、女は雜誌記者なのだ。[illegible]道をあるくにも、しつくりと戀人同志にあてどない散步ではない。彼女は近代的な職業の、いろんな斷片の材料をこつこつと詰めこみたいのだ。大理石の建築に驚いたのもそれだ。

「大たんに、自分でひとつやつてごらん」

「あなた、あとからついてきてね。」

紀代子はやんちやな少女つぽい身ぶりを一つのこすと、さつと步みを早めて、追ひついて行つた。

彼はこつちから、彼女の旅人なればこそできる戲らつけに微笑しながら眺め、ついてゆくと、彼女はどういふ風に話しかけたものか、相手の若い娘は、徐ろに步調をゆるめ羞かしさうに、背の高い彼女をみあげて、笑ひかけてゐた。

きゆつと引締めに結つてゐる髮の形と、白い顏のまとまるとした肉付きの曲線とで、之れは意外にも美しい女だつた、と吉瀬は眼をみはらないでゐられなかつた。それをめざとく見つけだした紀代子は慧眼だ。

はなるべく、ゆつくりと隔たりをつくつてゆくと、女二人は小聲に何か話しながら、肩を寄せかけて、急かない步調でゆく。

薔薇いろの、厚味のある外套を着て、肩を思ひきつた直線に仕立た紀代子が、金屬性の感しをみせた二本の脚と、裙の裾から、ちかちかと細型の可憐な踵をみせて、小刻みにあるいてゐるその若い娘との對象は、彼にとつても、わるくない興味だつた。

彼女はその娘に、自分を紹介したとみえ、一寸立止ると、かるく挨拶つて、眼で合圖をよこした。

うなづいて、步みよると、吉瀬は、恥づかしさうに頭を下げる娘に、一寸會釋を交した。

「この方、東京には二三年お住みになつてたこともあるんですつて、だからお話しよく判るわ」

わかれ

「よかつたわ、あたし、朝鮮の女の方から何かおはなしをきいて歸りたかつたのよ。」

紀代子は自分の直感の[illegible]に、自ら誇りを感じてゐた。どこか、日本內地の土を踏んでゐる人だ、その服裝にも、彼女みづから工夫したスタイルの良さがある。

と、ずばずば切り出す、相手は東京の親戚の許から、山の手の某私立女學校に二年ばかり通つてゐたが、京城の生家では母親が病氣をして、何うしても歸れといつてきかなかつたので、通ひたい志も放擲して、女子醫專にまで通つてから、もう半年に經つとも言つた。

三人が聯つた卓子の隅に、初めはもの怖して、ぽつり、ぽつり、つきあたるやうな國語で話してゐたが、吉瀬と紀代子とが、夫婦關係に近い戀人同志だと知ると、漸く安心して、東京の親戚の名を洩らした。それは、あの有名な、代議士の候補に出た××だ。

「もう一度、東京にいらつしやいよ。」

「行かれません、殘念ですけれど」

赤い薄手な唇を、神經的に顫はせ、鼻の上に細かい皺をよせて、富士額に伏せながら、つゝましさうに悲觀して言ふのだ。

「××さんなら、社會的に廣範圍に活動してゐらつしやるんだもの、お母さんだつて信賴してお出しになればいいのに」

秀麗は、かろく首をふつて淋しさうに笑ふ。彼女の兩親は、まだ古い時代の夢からさめきれず、新しい日本の進展にはおぢけをふるへてゐる位で、彼女の東京行は至難らしい。

「ぢや、おうちを逃げだしたら？」

「そんなこと、できないです。」

「あたしならさうと思ふな」

「京城の女の人、だいたいんだから、できない……」

吉瀬は、歷史の異と、時代背景のちがひと、そして異つた二個の女の性格の對象とを、はつきりそこでみつけられた。

東から來た紀代子には、發展と躍進とを背負ふ、建設の世紀に入つた、民族の血液がうづまいてゐるし、秀麗のやわらかい、うす桃色の肌には虐られ長い歷史をもつ女性の、服從的な心のしなやかさが、春風にすら惑ふ小花の弱みたいに顫へるのだ。

「あなたなんかの、若い女性からみて內地の婦人の生活、おかしくない？たとへばあの、大きなお太鼓を背負つてゐる姿なんか、變にみえるでせうね」

「日本の着は、さうでもなかつたでせう」

「えつ」

と紀代子は逆襲されたやうに跳ね起き

「あれは、朝鮮の影響をうけてゐたのね、それだのに、次第に日本化して、德川時代へ來ると、すつかり活動を奪はれた女の姿として、狹い帶、長い袂に變つたんです。今は日本の女が、この德川時代の服裝を踏返しなくちやならない時に來てゐるんだと思ふわ。」

秀麗はかるく頷いた。

彼女自分も、この古い朝鮮を近代的に發展させるために、どこの女も自國の歷史に不滿を持つと同しやうな懶と焦りを持つてゐた。

「あなたの着てゐらつしやる朝鮮服、實に好い恰好ね」

「これは、私が工夫したんです、でも古い人たちは嫌りんですよ」

「あなたのお宮風もとで送つて頂戴、もう今夜きりこの京城とおわかれだわ」

「おう、もうお立ちになるの」

初めて會つて、もう終りの別れに臨んでゐる淋しさが、二人の女い胸に溢れた。

外に出て、南大門まで、三人は自動車をとばし、先に下りてゆく秀麗の、ちよこ〳〵と步く姿が、[illegible]か、眼に沁みるほど、吉瀬の胸に可愛くみえた。彼は半島娘が、こんなにまで、心を惹きつけるものだと知らなかつたが、それを引出したのは紀代子なのだ。

「まるで、水仙みたいな娘だね」

「あれで新しい時代の勵みをもつてゐるのだから偉いわよ」

二人はざつと見物して、夕方は京城驛前の、日本旅館に泊つた。

あとまた二人は、半年たつて會へるか、一年たつて會へるか判らない淋しさに濃く塗りこめられて、その夜も床の中で、昨夜と同じやうに眠られなかつた。

ひるまは、職業意識と勝氣とで、さんざ矢を射つてみせる紀代子が、二人となつて夜の世界に入ると、一氣にその情熱をほとばしらせ、子供のやうな天眞にかへつて、自由にその感情を充ぶらせた。

異鄕に、戀人をのこして歸つてゆく女心の辛さは、吉瀬にもよく判つてゐて、可哀さうで堪まらなかつた。

「このつぎ、あたしが來るまで、あなた、本當に、ひとりで我慢できる。できさうもないわ。心配だわ。ね、本當に獨りでゐてよね」

吉瀬は、東京の本社で拔擢されて彼はこの一月ほど前、京城の支社へと赴任したが、戀人の紀代子は弟が大學を出るまでは、母との三人暮しをその細い腕に稼きださねばならぬし、東京ですら同棲し得なかつた二人は、ついに京城へまで、その不幸な戀を延長させねばならなかつた。

だから、五日の旅も、紀代子は自分の勤めた社と、吉瀬の社との双方に誑き、その上、自宅にも、讀者慰勞の旅行だといつて、その旅費と時間とを工面した。

だから、吉瀬の方も、自分の下宿へは泊められず、わざと隔離の旅舍を選んだ。

國民服

東京に歸ると、紀代子は大阪への五日間の旅行で得た種だといつて、朝鮮の若い女の生活を十二三枚の記事にした。

間もなく、吉瀬から秀麗の寫眞を送つてよこした。彼は、その後彼女と交際をつゞけてゐるらしく、その手紙の中にも、「秀麗には、東京で失戀した相手があるらしい」などとかいてよこした。

[illegible]は[illegible]にとれてゐて、その[illegible]服裝と、彼女の內地の女性[illegible]らの感想とは、若い內地の女[illegible]に好感を與へるに十分だつた。紀代子はそれほど、朝鮮の女性が、日本の生活にたいして、卒直な批評眼をもつてゐる點をつよく識いた。

丁度その時、厚生省では、戰時を機會に、日本婦人の服裝の制定に乘出さうとし、國民服に新しい運動をおこさうとしてゐた。

紀代子の社も、いち早く、その事業をやりはじめた。それといふのも、紀代子がその部屋のなかに『日本婦人が大陸への進出をやらうといふのに、支那人にも朝鮮同胞にも融合しない、日本のきものは間違つてゐる。』とかいたのが、部長の頭にぴんときたらしく、はたと膝を叩いて、この事業を企畫したのである。厚生省と偶然の一致であつた。

紀代子は自分もこの事業に關係したかつたが、社內の事業は禁じられてゐるところから、公然とは出たい、母の名を使ふことにして、幾枚となく、メリンスや銘仙の着古しを解き壞して、上下二つに分けた改良服をつくりだした。

お太鼓の帶も要らない、羽織も要らない、二反の布で出來る、輕快な服裝なのだ。

上着は元祿袖のもつと詰つたもので、裾は二つの股に別れて、いざといふ非常時には、スナップをかけて、きゆつとモンペの形に變化らせるといふしかけである。

人絹の紫地の更紗を買つてきて母や弟の前で着てみせたときは、母は、

「おまへは、洋裝よりか、その方が、よつぽど似合ふと思ふ。毎日着てゐたら何う。」

すると弟は、寢轉がつたまゝで仰ぎ見乍ら、

「何だか、朝鮮服の眞似だよ。」

「さうよ、奈良時代の服裝もとつたんでもの」

鏡で映してみると、紀代子はきゆつと襟をかき合はせたあたり、秀麗の立姿そつくりの氣がしてはつと思つた。

たつた一度、京城で見た彼女の印象が、こんなにも强く頭に入つてゐようとは……

愛はうつる

殆ど三日おきに、吉瀬との間に交す手紙はだんだん日が隔たつて行つて、一週間、十日と延びるやうになり、そしてしつくりと溶け合つてゐた感情は、溫度が減へつて水が混つた稀薄なものとなり、最近の手紙などは、砂を嚙むやうな平凡な文字でかき綴つてある。

紀代子は焦々した。居たゝまれない淋しさに襲はれ、不安に囚へられた。

男は孤獨の淋しさを慣らさうとして、わざとから感情を硬化させてゐるのだらうか、とも思つてみた。

それは悲しい氣休めである。戀ひ慕ふ感情はそんな理窟で片付かない。感情はもつと直覺を銳くさせる。

いつたい、誰が相手だらう。新しい戀人は……彼女はたうとう京城で婦人記者の口を探すことより外に彼との同棲の問題は片つかないことを知つた。母と弟へ、毎月負擔額を送へならば、京城行きも不可能ではない。

彼女は半月ばかり、あちこちと運動した結果、京城の新聞社へ紹介狀をもらひ、それに履歷書を添へて、吉瀬の許へ送ることにした。

すると、その返事が、三日も五日も、はや一週間經つてもやつてこないで、殆ど半月もたつてから、書留で六枚もの、長い手紙となつて、彼女の手に落ちた。

――君が京城に來るといふことよりは、僕が京城を引揚げることの方が適當だと思ふ。それは朝鮮の土地が住み離いのではない。もつと個人的な意味で、何うしてもこの土地で君との同棲しがたい事件を、僕はおこしてしまつたのだ。この告白は、僕として實際苦しいのだ。

君からは、又しても、戀愛に充ちた手紙を貰つた。どうも新しい戀ができたのではないか？と言ひにくさうにかいてきた手紙の前で、僕は胸を引搔きずられるやうだつた。

その相手は、じつはあの女だ。秀麗だ。僕はやつぱり女なしに淋しかつたのだらう、二三回、差支へない場所で會つて、いつも君の傳言をもたらしてゐたが、ある雪の夕ぐれだつた。戀しいので、日本風の座敷に彼女を導き入れて、ゆつくり女の身の上話をきいたことがある。彼女は東京で大學生と戀におちて、プラトーニックだつたか、今もその心の傷で惱んでゐるらしい。僕は女の話しを、さら〳〵、窓の月に當る雪の音をききながら、ひどく惹きつけられてしまつた。いつたい彼女には、內地の女性では求めても得られない、丁度沫雪を手にのせると、その溫もりで、溶けてしまふやうな、さう言つた男心をそゝるものがある。

しかし、自分は內地人としての一つの紳士的の節度を失つてまでも、この戀に迷ひ込んではゐないのだ。二人の關係は、純潔なのだ。きれいな戀だ。だから、それだけに、精神的な戀愛は亢ぶつてゆく過程を辿るのだ。

別れるといふ前提の上に、許してもらひたいのは、時間の問題だ。今、君が急いでは、火に油をそゝぐ慰を識じるために、京城へ乘りつけるといふもので、弟さんの卒業を待つ間は、やつぱりこのまゝ君は東京に……

「まゝ、このまゝ東京にだつて？」

紀代子は、終りまでよむほど醉たらしい勇氣はなかつた。

首位に

その夜は眠られなかつた。何ら自分の心の解決をつけたものか、一個人間に、これほど强い執着のあるものかと、恐ろしくなるほど猛鬼の怒りがこみあげてきて、彼[illegible]にまで化けてゆきさうだつた。

しかし、何の復讐か、二人はまだ精神上の戀以上何でもないではないか。吉瀬の性格からも、この告白は眞實である。

そしてあの可憐な秀麗が、戀人のある男へと身を任すかるはづみはしさうもない。それは自分だけが、信じきれる友誼だと思つた。

――さうだ、信じるといふことより外、この問題の解決はない。

幾日か、紀代子は考へつゞけた末に、たうとう思ひ切つて手紙をかいた。

あなたは一層、あの可哀さうな秀麗さんを、一生、見守つてあげるために、結婚してあげて下さい。あの人は、內地人と結婚することによつて、ひとつの大きな道を拓くでせう。

內地人が、同胞の人々へ行つた行爲のうちで、一番何が惡かつたか、何が一番必要なことか、と考へてみて下されば、私のこの言葉はよく解ります。

あなたは同胞であるべき女の、[illegible]だけは奔はなかつたからといつて、その精神的な傷に與へた責任を何うするつもりでせう。現に、あの人は、東京で大學生からうけた苦しみを、又あなたとの二重な運命で惱まねばならぬのでせうか。

どうぞ、潔よく結婚してあげて下さい。

嫉妬、[illegible]、さういふ女にはかういふ智性の愛も生れます。

彼女は、[illegible]ながら、びつしよりと手の甲で濡らした。吉瀬と別れる悲しみと、もつと大きな意味で同性の同胞を愛し得られる自分の滿足との、いりまじつた淚であつた。

改良服は、非常な好評で、千を超えた懸賞募集に、有名な女流裁斷家で、毎日のやうに社へ通つてきては、一頁、二頁と選擇して、ぐんぐん佳良な作品を拔いてゆき最後に三點の、優秀なものを選した。

そして紀代子が、朝鮮服からヒントを得た、あの上下二つに區分した新案の服裝は、今一つの作品と首位を爭つてゐたが、ついに最後のゴールに入つた。賞金は三百圓だつた。

彼女の添へた說明がきがものを言つた。

「朝鮮服からヒントを得たといふことは亞細亞大陸の東西をつなぐものは、その中部に於ける朝鮮の古典文化を、近代的に生かすことによつて生命づけられるからだ」

この首位の應募者が、母の名を借りた彼女であつたことに、社の人たちは喜んでくれたが、自分も感激して我家に歸ると、留守中に一通の電報が、紀代子の歸りを待つてゐた。

『シユウレイヘイエンヲヤムキテクレ』

『あらつ、秀麗さんが、肺炎？』

と大きな聲をあげて、いきなり草履をつゝかけて飛出した。社長へ朝鮮行きの許可を仰ぐつもりだ。服裝の賞金は旅費となるし、同地の文化研究の使者として、社長は許すであらう。

秀麗の命が助かれば、二人を、彼女の兩親に賴んで、結婚させてやる、といふ意義ある役目も果せるし、何卒生きてゐてくれるやうに！

紀代子は自分にも、かうした大きな愛があることで充ち[illegible]しながら、藥舖の電話口へと急いで行つた

富安風生

初刷のいくさのにはの大き寫眞

初詣青潮わたり礁ふみ

平凡に十姉妹飼ひ庵の春

手鞠てふものは愛しも書架におく

大いなる羽子板抱いて姑まる

機はじめ　水原秋櫻子

大空に[illegible]朝の機[illegible]　秋櫻子

賀戰捷之新春併而謝皇軍之奮闘

瑞山郡廳

雲山面長 尹承秀

音岩面長 孫亮淡

高北面長 金在錫

遠北面長 兪鎭喃

瑞山郵便所長 川瀨渡

大湖芝面桃李里 片原農場 森日

瑞山邑内 赤井賢兒

瑞山邑内 春元旅館 稻葉勝治

遠北面貴村里 東亞農場 澤田重雄

瑞山指定旅館 麻生幾夫 瑞山邑内

瑞山安興港 原田得二

瑞山安興港 漁業 精米業 重田瑞穂

瑞山海美邑内 海美釀造場 上村信衛

瑞山邑内 日ノ出旅館 高橋關太郎

瑞山安眠港 精米業 新井義雄

瑞山邑内 印刷業 雜貨商 玉木卯助

瑞山邑内 瑞泉寺 津田俊英

瑞山邑内 川端勝春

松汀里學校組合 管理者 瀨戶友顯 電話三九番

全羅南道 全南瀬産株式會社 宮脇丈八 電話八番五二番

會席料理 加茂川樓 主 馬場トメオ 電話二七番

松汀里公立尋常高等小學校 校長 首藤武男 外 職員一同 電話一四番

殖産銀行松汀出張所長 金谷芳三 電話七番一〇四番

朝鮮湖南線松汀里 松汀里穀物組合 組合員一同

旅館 自見卯三郎 電話一八番

百貨店 晴自見次 電話六四番

長岡薄荷 松汀里工場 職員一同 電話五一番

退潮明太卵製造業者組合

退潮明太穂組合

退潮漁業組合

退潮肝油製造業者組合

退潮消防組

退潮衛生組合長 金英植

西退潮面 職員一同

バーマル 本店 電話 支店 町上村 1245 元町一丁目

退潮衛生組合

退潮公立尋常小學校 職員一同

大邱驛長

大邱府弓町 堀越友二郎

慶尚北道々會議員 入山昇 倭館

大邱商工會議所 理事 吉田由已

大邱本町 金昌錄

大邱 金聖在

大邱府會議員 小野元太

朝鮮運送株式會社大邱支店 支店長 高橋貢

慶北無盡株式會社 社長 徐昌圭

朝鮮大邱府新町市場 海陸物産問屋 委託業 三倉商會 主 李盆根 電話(サン)又八(呂) 長電話一、九五二番

時計とカメラ 森玉光堂 大邱元町角 電五〇三番

大邱府元町二丁目七番地 株式會社 小野寺石油店 電話長八七五 一〇七 五五番

慶尚北道慶山 高崎農場

大邱製氷株式會社

退潮驛前 水産業 洪淳鎭

大邱府 料理 荒木別莊

大邱府元町一 料理 福壽軒

朝鮮大邱府東城町 割烹 魚竹 電話五四七番

映畫劇場 萬鏡館 電九八二

大邱府中央通 喫茶 花月 電話四七八

大邱府 達城券番

味噌醤油醸造 荒木作次郎商店 大邱府錦町

大邱旅館組合

大邱府錦町一丁目 內鮮運輸組

大邱府元町二丁目二番地ノ一 南鮮運輸株式會社

大邱府北城町五番地 合資會社 龍岡組 電話長五九二番

慶尚北道榮州郡 英陽邑内二火會

戊辰會 慶尚合同銀行安東支店 慶安釀造株式會社 安東酒造株式會社

慶尚北道奉化郡 乃城官公吏一同

大邱府村上町 料理 明石

退潮金融組合 職員一同

三共物産株式會社 楡川麯子製造株式會社 清道酒造株式會社

大邱府幸町一番地 共榮自動車株式會社

大邱稅務監督局

大邱郵便局

大邱府醫師會

大邱煙草小賣人會 大邱販賣所

大邱官公立中等學校長會

慶尚北道漆谷郡 倭館官公吏一同

大邱保護觀察所長 佐々木義久 時局對應全鮮思想報國聯盟大邱支部 徐丙朝

慶尚北道警察部長 八木信雄

慶尚北道產業部長 李昌根

大邱產業株式會社 社長 坂本俊資

大邱商工會議所議員 唐津博旌

大邱稅務監督局 土屋傳作

大邱料理屋組合

大邱金曜會
朝鮮銀行大邱支店
合同銀行
商工銀行
殖産銀行大邱支店
漢城銀行大邱支店
東洋拓殖會社大邱支店
朝鮮信託會社大邱支店
朝鮮貯蓄銀行大邱支店

慶尚北道々會議員 三好佐太郎 (盈德郡)

慶尚北道々會議員 大井利三郎 (安東邑)

杉原合資會社長 杉原長太郎

慶尚北道 安東邑事務所

慶尚北道漆谷郡 倭館釀造組合

慶尚北道倭館 金融倉庫株式會社

大邱商工會議所

大邱稅務署

大邱府錦町二丁目二一 佐治商會

大邱府元町壹丁目二壹番地 アンゴラ商會

大邱卸商組合

慶尚北道立 安東醫院

洋食料品と 朝鮮土産品 大邱驛前角 吉田九州堂 電話五七三番

大邱府本町二丁目 株式會社 南方商店 電話長一六一番 振替金山一六一番

大邱布木商組合

大邱府東門町 醤油醸造 今金屋商店

慶北道會議員 高田官吾

大邱府東城町三丁目七〇番地 大邱朝鮮酒醸造株式會社 電話九六八番

大邱府錦町一丁目一番地 大邱公會堂ホテル 電話一五九三番

慶尚北道 安東警察署

慶尚北道立 大邱醫院

慶尚北道 達城郡廳 郡農會職員一同

慶尚北道農會

慶尚北道地方米穀統制組合聯合會

大邱府幸町 慶尚北道 果物同業組合

大邱府山格洞 大邱リンゴ 大野農場 大野要

慶北 土木建築業協會

大邱印刷合資會社

海陸物産委託業並ニ運送業 ㊣正實商店 主 李周洪 大邱府新町市場 特電五九九番

大邱府錦町二丁目 梅根商店 電話長五二八 三八二 〇五八番

朝鐵自動車興業株式會社 大邱出張所 大邱府幸町一番地

慶北貨物自動車株式會社

大邱府七星町一五二番地 朝鮮紡織株式會社 大邱繰棉工場

朝鮮大邱 棟居酒造場 電話八一四・八三四番

朝鮮大邱府東門町 今若松商會 電話長三一・一七九番 振替口座京城一〇三七番

朝鮮大邱府東本町 酒類釀造業 片木屋酒店 電話五五一番 振替京城六八三八番

大邱朝鮮酒酒造組合

片ノ 大邱 朝鮮生糸

南鮮合同電氣株式會社 大邱支店

大邱府廳

大邱地方專賣局

朝鮮金融組合聯合會 慶尚北道支部 所屬各金融組合

大邱米穀取引所

朝鮮大邱府聖堂洞 鮮光副業組合 電話一、六七二番

慶尚北道廳食堂員一同

慶北無盡株式會社

三中井大邱支店